

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	アジア史						
担当教員	郭 暁博					科目ナンバ-	Z52290
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	中国とその周縁の歴史を概説する。						
授業の概要	アジア地域の古代文化の成り立ちからペルシア、インド文化への展開を概括する。その後、古代から近現代にいたる中国や中華世界の周縁に位置した日本、朝鮮、ベトナムから見た中国像はいかなるものであったか、また中国の社会と文化を検討する。東アジアと日本の交流の歴史を時系列に学ぶ。						
到達目標	中国を中心とした東アジアの歴史を学び、東アジアにおける日本の立場を再認識できる。						
授業計画	第1回 漢字世界の拡大と中華意識 第2回 『日本書紀』が成り立たせる「中国」 第3回 中華世界の変貌 第4回 朝鮮史から見た明清中国 第5回 ベトナム史から見た中国近現代 第6回 中国史にみる周辺化の契機と展開 第7回 ベトナム史と中国史 第8回 東アジア冊封体制と複数の中華 第9回 儒教とその真理性 第10回 都市と農村 第11回 女性史の観点 第12回 華僑 華人 第13回 環境と治水の歴史 第14回 中国史の読み方 第15回 今までのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：日頃から、東アジアに関する新聞など目を通しておくことを希望する。（学習時間：週一回） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：週90分）						
授業方法	講義形式で、映像や画像などを用いながら進めていく。ほぼ毎回授業内容に沿ったレジュメを配布する。						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 論述式のテストと小テストで評価を行う。（試験70% 小テスト30%） フィードバックの方法 テストの評価後は、添削したものを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	歴史や東アジアの情勢などに興味を持って臨むことを期待する。 授業回数の3分の1以上欠席した人は、原則単位認定を行わない。 授業中に、他の受講者の迷惑になるような行為を起こす場合、途中退室を求める。（欠席扱いとする）						
教科書	プリントを配布する。						

参考書	宮崎市定『アジア史概説』中公文庫、ISBN : 978-4122014015 濱下武志、平勢隆郎『中国の歴史』有斐閣、ISBN:978-4641121911
-----	---

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	映像と大衆文化／比較文化IIA						
担当教員	西岡 恒男					科目ナンバ-	A32030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画化されたさまざまな『美女と野獣』を比較し、特徴や相違点を考察する。						
授業の概要	フランスなどで民衆に親しまれ、20世紀に何度も映画化されてきた『美女と野獣』を取り上げ、まず原作物語の基本内容を概観する。次いで、種々の映画化作品を比較して、物語の違いやテーマの変遷などを考察する。書物＝「原典」を絶対視せずに、視覚メディアの発達した社会において、繰り返し映画化される物語の多様なあり方を知り、豊かな作品経験を目指す。						
到達目標	(1) 小説と映画の相違点に関して、基本的な知識を身につけることができる。 (2) 古い作品から最新作まで深く掘り下げることで、物語の歴史に関心をもつことができる。 (3) 作品比較によって物語内容やその解釈の多様さを知り、幅広い思考法を得ることができる。						
授業計画	第1回：『美女と野獣』の基礎①：成立過程（ポーモン夫人とヴィルヌーヴ夫人） 第2回：『美女と野獣』の基礎②：多種多様な作品群（小説・絵本） 第3回：小説から映画へ：ふたつのメディアの相違点 第4回：ジャン・コクトー版①：ジャン・コクトーの世界観 第5回：ジャン・コクトー版②：苦悩する野獣 第6回：ジャン・コクトー版③：人生の反転可能性 第7回：ユライ・ヘルツ版：チェコスロバキアの幻想映画 第8回：ディズニー版①：王子が野獣になった経緯、進歩的な女性としてのベル 第9回：ディズニー版②：『美女と野獣』から『野獣と美女』へ 第10回：ディズニー版③：原作にはない工夫、スリルとサスペンス 第11回：クリストフ・ガンズ版①：ディズニー版への対抗意識 第12回：クリストフ・ガンズ版②：絡み合う時間性、野獣の過去を振り返る 第13回：クリストフ・ガンズ版③：自然に帰る王子、フランスの伝統を意識 第14回：ダニエル・バーンス版①：高校生恋愛ファンタジー映画 第15回：ダニエル・バーンス版②+まとめ：苦悩するのは女性？ それとも男性？						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で扱う内容の予習（詳細は授業内で指示）（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の整理・復習。可能であれば、課題の提出や松蔭manabaの確認なども求める予定。（学習時間：90分）						
授業方法	講義（各回、設定通りの内容で講義を行う。もちろん、重要な箇所は映像を授業内で上映する）						
評価基準と評価方法	授業への取り組み姿勢20%：マナーを重視し、積極的な参加を期待する。 授業ごとの提出物40%：リアクションペーパー・予習復習プリントなどの提出により、達成目標（1）と（2）の達成度を確認する。 レポート40%：授業内容に沿ったレポート提出を求める。達成目標（3）を意識し、自分なりの視点・思考法が身についているか確認する。レポートは添削したうえで返却予定。可能であれば講評も公開する。						
履修上の注意	授業回数の1/3以上の欠席がある者は、レポート提出による試験受験資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。						
教科書	各回プリントを配付予定。						
参考書	『映画になった児童文学』、川端有子・水間千恵・横川寿美子・吉本和弘著、玉川大学出版部、ISBN978-4-472-40474-0						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	学習心理学						
担当教員	陳 香純					科目ナンバ-	P1203A
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間を含む動物が、それぞれの環境で適応するための手段として学習がある。経験を通じて行動や考え方を変化させる学習の基礎過程を扱う。						
授業の概要	人間の行動のルーツを考えたとき、その多くが学習過程に依存していることに気付く。人間が主体的に環境、とりわけ周囲の人間との関わりの中で様々な行動を獲得し、抑制している過程を説明するためには2つの条件づけを理解することが必須である。本講義では、これら2つの条件づけを中心に、行動のメカニズムを探っていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の行動様式を支えているものが学習であることを理解できる。</li> <li>・2つの条件づけの基礎過程を理解できる。</li> <li>・一人ひとりの日常的な行動を学習心理学の視点から見つめることができる。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：学習心理学とは何か</li> <li>2. 生得的行動 / 様々な行動と学習との関わり</li> <li>3. 古典的条件づけ1：馴化と鋭敏化</li> <li>4. 古典的条件づけ2：獲得過程と刺激般化</li> <li>5. 古典的条件づけ3：消去と自発的回復</li> <li>6. 古典的条件づけ4：信号機能</li> <li>7. 古典的条件づけの応用</li> <li>8. オペラント条件づけ1：効果の法則と参考随伴性</li> <li>9. オペラント条件づけ2：強化</li> <li>10. オペラント条件づけ3：消去と弱化</li> <li>11. オペラント条件づけ4：刺激性制御</li> <li>12. 応用行動分析学1：DVD学習（応用行動分析の現場について）</li> <li>13. 応用行動分析学2：介入計画および実施方法</li> <li>14. 様々な学習 / トレーニングについて</li> <li>15. 定期試験実施とまとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自分の行動と授業で扱う学習過程の関わりを積極的に考える。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点30%（課題や小テストを行う） 定期試験70%						
履修上の注意	私語など他の受講生の迷惑となるような行為を禁止する。						
教科書	随時プリントを配布する。						
参考書	<p>実森正子・中島定彦（2000）. 学習の心理—行動のメカニズムを探る. サイエンス社  中島定彦（2002）. アニマルラーニング—動物のしつけと訓練の科学. ナカニシヤ出版  杉山尚子（2005）. 行動分析学入門—ヒトの行動の思いがけない理由. 集英社新書  奥田健次（2012）. メリットの法則—行動分析学・実践編. 集英社新書</p>						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養演習I／（幸せに生きるための倫理学）						
担当教員	濱崎 雅孝					科目ナンバ-	752360
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	教養を身につけながら、幸せになる方法を考える。						
授業の概要	教養は何のためにあるのでしょうか。なぜ大学で教養を身につける必要があるのでしょうか。それは誰かに知識をひけらかすためではないし、自分の価値を高めるためでもありません。教養は人が幸せになるためにあるのです。この演習では、幸せに生きるための教養を身につける方法を講師とともに学んでいきます。						
到達目標	著名な文学作品や哲学書を読むことで、教養を高め、幸せに生きる方法を習得する。						
授業計画	第1回 夏目漱石『草枕』芸術は人を幸せにするか 第2回 夏目漱石『こころ』自責の念を克服して幸せになる 第3回 太宰治『走れメロス』友情と正義感は人を幸せにするか 第4回 太宰治『人間失格』これを読んで合格人間になる 第5回 三島由紀夫『仮面の告白』ナルシストは幸せになれるか 第6回 三島由紀夫『金閣寺』理想主義者は幸せになれるか 第7回 三島由紀夫『春の雪』究極の恋は人を幸せにするか 第8回 遠藤周作『女の一生』愛に生きることで幸せになれるか 第9回 遠藤周作『沈黙』神への信仰は人を幸せにするか 第10回 三浦綾子『塩狩峠』自己犠牲は人を幸せにするか 第11回 トルストイ『アンナ・カレーニナ』禁じられた恋は人を幸せにするか 第12回 トルストイ『クロイツェル・ソナタ』禁欲主義者は幸せになれるか 第13回 サン・テグジュペリ『星の王子さま』子どもの心で幸せになる 第14回 西田幾多郎『善の研究』座禅と瞑想で幸せになる 第15回 ニーチェ『ツアラトウストラかく語りき』生きる喜びに満たされる						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で使用する本を読む（最低1冊以上）。 分からない言葉を辞書で調べる。						
授業方法	演習であるが、担当の学生が前に出て発表するという形式ではなく、講師が選んできた文学作品などを読み、映像資料を見たり、講師の解説を聴いたあとで、受講生の考えを文章にしていこうという方法を探る。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート：75%（5点×15回＝75点） 期末のレポート：25%						
履修上の注意	文学に関心のある人、人間の生き方について考えてみたい人、文章力を磨きたい人などを対象とした演習です。毎回、文学作品を読んで、課題について論述する演習なので、活字を読むのが苦手、文章を書くのが苦手という人にはお勧めできません。						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。ただし、レポート作成のために、紹介した本を文庫（1000円以下）で買ってもらえるかもしれません。詳細は、授業の中で説明します。						
参考書	授業の中で紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての音楽／音楽入門						
担当教員	黒坂 俊昭					科目ナンバ-	251050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽の魅力を探る						
授業の概要	日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、そのためクラシック音楽が広く普及されていません。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるでしょう。ではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのでしょうか。問題はそれほど単純ではありません。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされるとともに、鑑賞する側にも『聴く能力』が要求されているからです。毎回の授業でさまざまな名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていきます。						
到達目標	クラシック音楽に触れることから始め、それを鑑賞することができるようになり、その音楽的価値を正しく理解できるようになります。						
授業計画	第1回 クラシック音楽の歴史的概観 第2回 合奏協奏曲の流行：J.S. バッハの《ブランデンブルク協奏曲》 第3回 聖書に基づいた音楽：J.S. バッハの《マタイ受難曲》 第4回 独奏協奏曲の誕生：A. ヴィヴァルディの《協奏曲集「四季」》 第5回 特権階級の音楽：W.A. モーツァルトの《交響曲 第40番》 第6回 死者のためのミサ曲：W.A. モーツァルトの《レクイエム》 第7回 市民社会の理想の音楽：L. van ベートーヴェンの《交響曲 第5番「運命」》 第8回 芸術音楽の市民社会への広がり：F. シューベルトの《さすらい人幻想曲》 第9回 市民の貴族社会への憧れ：G. ヴェルディの《オペラ「椿姫」》 第10回 キャラクター・ピースの流行：F. リストの《愛の夢 第3番》 第11回 ショパンのロマン主義：F. ショパンの《ポロネーズ 第6番「英雄」》 第12回 標題音楽への志向：H. ベルリオーズの《幻想交響曲》 第13回 国民楽派の音楽：P.I. チャイコフスキーの《序曲「1812年」》 第14回 ロマン主義音楽の名残り：S. ラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》 第15回 授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回一つの授業から次の授業までの間に、授業内容を踏まえて、少なくとも1曲のクラシック音楽を鑑賞しなければなりません。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	・試験50% ・ミニ・レポート50%						
履修上の注意	音楽を鑑賞するときは、必ず静粛でなければなりません。鑑賞の妨げになる受講生には退室を命じ、甚だしい場合は受講を取り消します。						
教科書	市販の書籍は使用しません。適宜プリントを配布します。						
参考書	必要な場合、適宜指示します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての音楽／音楽入門						
担当教員	黒坂 俊昭					科目ナンバ-	251050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽の魅力を探る						
授業の概要	日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、そのためクラシック音楽が広く普及されていません。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるでしょう。ではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのでしょうか。問題はそれほど単純ではありません。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされるとともに、鑑賞する側にも『聴く能力』が要求されているからです。毎回の授業でさまざまな名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていきます。						
到達目標	クラシック音楽に触れることから始め、それを鑑賞することができるようになり、その音楽的価値を正しく理解できるようになります。						
授業計画	第1回 クラシック音楽の歴史的概観 第2回 合奏協奏曲の流行：J.S. バッハの《ブランデンブルク協奏曲》 第3回 聖書に基づいた音楽：J.S. バッハの《マタイ受難曲》 第4回 独奏協奏曲の誕生：A. ヴィヴァルディの《協奏曲集「四季」》 第5回 特権階級の音楽：W.A. モーツァルトの《交響曲 第40番》 第6回 死者のためのミサ曲：W.A. モーツァルトの《レクイエム》 第7回 市民社会の理想の音楽：L. van ベートーヴェンの《交響曲 第5番「運命」》 第8回 芸術音楽の市民社会への広がり：F. シューベルトの《さすらい人幻想曲》 第9回 市民の貴族社会への憧れ：G. ヴェルディの《オペラ「椿姫」》 第10回 キャラクター・ピースの流行：F. リストの《愛の夢 第3番》 第11回 ショパンのロマン主義：F. ショパンの《ポロネーズ 第6番「英雄」》 第12回 標題音楽への志向：H. ベルリオーズの《幻想交響曲》 第13回 国民楽派の音楽：P. I. チャイコフスキーの《序曲「1812年」》 第14回 ロマン主義音楽の名残り：S. ラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》 第15回 授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回一つの授業から次の授業までの間に、授業内容を踏まえて、少なくとも1曲のクラシック音楽を鑑賞しなければなりません。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	・試験50% ・ミニ・レポート50%						
履修上の注意	音楽を鑑賞するときは、必ず静粛でなければなりません。鑑賞の妨げになる受講生には退室を命じ、甚だしい場合は受講を取り消します。						
教科書	市販の書籍は使用しません。適宜プリントを配布します。						
参考書	必要な場合、適宜指示します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての美術／美術入門						
担当教員	宮地 佳代					科目ナンバ-	Z51060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	制作の「視点」からみた美術						
授業の概要	美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拓け、美術への理解、関心を深めることを目的としている。 この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。						
到達目標	作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 油彩画 第3回 日本画 (1) 形態と機能 第4回 日本画 (2) 表現 第5回 遠近法 第6回 視覚の変貌 第7回 フレスコ画 第8回 テンペラ画 第9回 時間の表現 第10回 版画 (1) 版画の特性 第11回 版画 (2) 凸版／孔版 第12回 版画 (3) 凹版／平版 第13回 彫塑 第14回 素描 第15回 多様化する表現						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	日頃から美術作品 (美術館やギャラリー、街中に設置されている作品等) をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想をメモする習慣をつけましょう。授業理解やレポートを書く際に役立ちます。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題レポート60% : 各回授業内で実施。授業内容に沿ったレポートテーマを設ける。授業内容の理解と到達目標に関する到達度を確認。 期末レポート40% : 到達目標に関する到達度の確認。						
履修上の注意	1. 三分の一以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。 2. 授業の進行状況によっては授業内容を変更する場合があります。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業内で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	教養としての美術／美術入門						
担当教員	宮地 佳代					科目ナンバ-	251060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	制作の「視点」からみた美術						
授業の概要	美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拓け、美術への理解、関心を深めることを目的としている。 この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。						
到達目標	作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 油彩画 第3回 日本画 (1) 形態と機能 第4回 日本画 (2) 表現 第5回 遠近法 第6回 視覚の変貌 第7回 フレスコ画 第8回 テンペラ画 第9回 時間の表現 第10回 版画 (1) 版画の特性 第11回 版画 (2) 凸版／孔版 第12回 版画 (3) 凹版／平版 第13回 彫塑 第14回 素描 第15回 多様化する表現						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	日頃から美術作品 (美術館やギャラリー、街中に設置されている作品等) をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想をメモする習慣をつけましょう。授業理解やレポートを書く際に役立ちます。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題レポート60% : 各回授業内で実施。授業内容に沿ったレポートテーマを設ける。授業内容の理解と到達目標に関する到達度を確認。 期末レポート40% : 到達目標に関する到達度の確認。						
履修上の注意	1. 三分の一以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。 2. 授業の進行状況によっては授業内容を変更する場合があります。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業内で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	近代文学史／日本文学史B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J72140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解できる						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の文学 導入 第4回 明治期の文学 応用 第5回 明治期の文学 展開 第6回 大正期の文学 導入 第7回 大正期の文学 応用 第8回 大正期の文学 展開 第9回 昭和期の文学 導入 第10回 昭和期の文学 応用 第11回 昭和期の文学 展開 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	『日本近代文学年表』 鼎書房 ISBN978-4-907282-30-1 C0091						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと医療						
担当教員	原 正之					科目ナンバ-	Z51220
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	医療制度や医薬品の開発に関わる制度の概説と、新しい医療技術や生命倫理に関わるトピックスの紹介など。						
授業の概要	まず、我が国の医療保険制度の概要を解説する。先端的な医療技術や再生医療について解説する上で、理解の前提となる生物学や化学の基礎的な知識についても、併せて説明を行う。近年関心の高まっている再生医療を中心として先端医療に関わる技術のトピックスを紹介し、その背景となる医学や生物学の技術的進歩、ならびに社会的背景を含めて解説を行う。医薬品、医療用具の認可制度、臓器移植や研究目的での細胞や組織の提供の仕組みについてなど、生命倫理と医療技術の社会的受容に関わる問題について解説する。						
到達目標	新聞やニュース等で報道される医療制度や医療技術に関わる問題に関心を持ち、将来において自分や家族にも関係のある問題として考えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療制度についての概論</li> <li>2. 再生医療とは？</li> <li>3. 細胞分化と発生のしくみ</li> <li>4. 幹細胞について</li> <li>5. 医療用具とその材料</li> <li>6. 人工臓器と組織工学</li> <li>7. 医薬品、医療用具の認可制度</li> <li>8. 臓器移植について</li> <li>9. クローン動物作成技術</li> <li>10. 生命倫理と社会的受容</li> <li>11. 難病について</li> <li>12. 感染症</li> <li>13. 医療費について</li> <li>14. 医療に関わるトピックス（報道記事などを参考にして事例を解説）</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞などで報道される医療制度、医療技術についての記事に良く目を通して、必要であれば切り抜いておく。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（出席、授業態度、積極性など）50%と課題レポート提出50%により、総合的に評価する。						
履修上の注意	先端医療に関する著書や、厚生労働白書、報道記事などに注意を払うことを薦める。						
教科書	取り上げる問題が多岐に渡るので、教科書は特に指定しない。						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	海道 俊明					科目ナンバ-	Z51180
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本国憲法を自分のあたまで理解し、憲法問題について、自分のことばで意見をいう。						
授業の概要	まず、憲法論に限らない法学入門的な導入講義（法律とは何のために必要なのか、単なる道徳と法律の違い、法律の限界等）を行い、その後、憲法総論として、日本国憲法の存在理由やその仕組み（国民主権と政府の関係、憲法とは誰に対して効果を有するものか等）について取り扱う。最後に、憲法各論として、民主主義、平和主義および人権に関する諸問題を取り上げ、最終的に「憲法問題について自分なりの意見をいう」ことが出来るようになることを目標とする。						
到達目標	憲法と法律の違いを理解し、憲法上の諸問題について、様々な見解があることを知ったうえで、自分なりの見解を自分の言葉で説明することができるようになる。						
授業計画	<p>第1回 I インTRODakShION 授業の進め方、試験について</p> <p>第2回 II 法と人間 1. 法の歴史</p> <p>第3回 III 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係</p> <p>第4回 III 法律の3部門 1. 民事法</p> <p>第5回 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法</p> <p>第6回 III 法律の3部門 4. 裁判制度（民事裁判・刑事裁判・行政裁判）</p> <p>中間まとめと復習テスト1（I～III：45分）</p> <p>第7回 IV 憲法はなぜ必要？ 憲法史・国民主権・憲法改正</p> <p>第8回 V 憲法の内容（1）1. 民主主義（国会と内閣）</p> <p>第9回 V 憲法の内容（1）2. 民主主義（地方自治）</p> <p>第10回 V 憲法の内容（1）3. 民主主義と司法</p> <p>中間まとめと復習テスト2（IV～V：45分）</p> <p>第11回 VI 憲法の内容（2）：戦争放棄</p> <p>第12回 VII 憲法の内容（3）：人権保障 1. なぜ人権を守るのか？</p> <p>第13回 VII 憲法の内容（3）：人権保障 2. 公共の利益・対・基本的人権</p> <p>第14回 VII 憲法の内容（3）：人権保障 3. 具体例：表現の自由</p> <p>第15回 VII 憲法の内容（3）：人権保障 4. 具体例：平等原則、生命身体の自由</p> <p>第16回 VIII 憲法の内容（4）：統治概論</p> <p>期末試験（VI～VII：60分）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	配付資料の該当箇所を読んで、質問にどう答えるかを考えてくること。						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	復習テスト（2回）と期末試験を総合して評価する。配点は、復習テストが20点×2回、期末試験が60点である。期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか（どのような見解をとるかは当然ながら自由）の2つを評価対象とする。						
履修上の注意	学期はじめに希望者を募り、希望学生と教師の対話によって講義を進める。学期を通じて当該役割を果たした者には、期末試験において最大10点を加算する。						
教科書	レジュメで行います。						
参考書	なし（配布資料あり）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	海道 俊明					科目ナンバ-	251180
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本国憲法を自分のあたまで理解し、憲法問題について、自分のことばで意見をいう。						
授業の概要	まず、憲法論に限らない法学入門的な導入講義（法律とは何のために必要なのか、単なる道徳と法律の違い、法律の限界等）を行い、その後、憲法総論として、日本国憲法の存在理由やその仕組み（国民主権と政府の関係、憲法とは誰に対して効果を有するものか等）について取り扱う。最後に、憲法各論として、民主主義、平和主義および人権に関する諸問題を取り上げ、最終的に「憲法問題について自分なりの意見をいう」ことが出来るようになることを目標とする。						
到達目標	憲法と法律の違いを理解し、憲法上の諸問題について、様々な見解があることを知ったうえで、自分なりの見解を自分の言葉で説明することができるようになる。						
授業計画	<p>第1回 I インTRODクシヨN 授業の進め方、試験について</p> <p>第2回 II 法と人間 1. 法の歴史</p> <p>第3回 III 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係</p> <p>第4回 III 法律の3部門 1. 民事法</p> <p>第5回 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法</p> <p>第6回 III 法律の3部門 4. 裁判制度（民事裁判・刑事裁判・行政裁判）</p> <p>中間まとめと復習テスト1（I～III：45分）</p> <p>第7回 IV 憲法はなぜ必要？ 憲法史・国民主権・憲法改正</p> <p>第8回 V 憲法の内容（1）1. 民主主義（国会と内閣）</p> <p>第9回 V 憲法の内容（1）2. 民主主義（地方自治）</p> <p>第10回 V 憲法の内容（1）3. 民主主義と司法</p> <p>中間まとめと復習テスト2（IV～V：45分）</p> <p>第11回 VI 憲法の内容（2）：戦争放棄</p> <p>第12回 VII 憲法の内容（3）：人権保障 1. なぜ人権を守るのか？</p> <p>第13回 VII 憲法の内容（3）：人権保障 2. 公共の利益・対・基本的人権</p> <p>第14回 VII 憲法の内容（3）：人権保障 3. 具体例：表現の自由</p> <p>第15回 VII 憲法の内容（3）：人権保障 4. 具体例：平等原則、生命身体の自由</p> <p>第16回 VIII 憲法の内容（4）：統治概論</p> <p>期末試験（VI～VII：60分）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	配付資料の該当箇所を読んで、質問にどう答えるかを考えてくること。						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	復習テスト（2回）と期末試験を総合して評価する。配点は、復習テストが20点×2回、期末試験が60点。期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか（どのような見解をとるかは当然ながら自由）の2つを評価対象とする。						
履修上の注意	学期はじめに希望者を募り、希望学生と教師の対話によって講義を進める。学期を通じて当該役割を果たした者には、期末試験において最大10点を加算する。						
教科書	レジュメで行います。						
参考書	なし（配布資料あり）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	くらしの中の統計学						
担当教員	津久井 茂樹					科目ナンバ-	251210
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	くらしの中や実験、調査等で使われる数字を、簡単な統計を使って分かりやすく読み解く。						
授業の概要	身近なくらしの中で、統計学が使われる場面が多くあります。その使われ方を簡単な例を通して学ぶことで、データ分析の手法と、データが意味する本質を理解することを目的とする。授業では、身近な話題を題材に、その評価をデータの代表値や散らばりなどのデータ分析から、相関、推定、検定などの統計操作、および簡単な確率やモデリングなどを利用して統計学的に処理する方法を学ぶ。難しい数学を使わずに統計の基礎を学び、実験データやアンケートなどのデータ分析、情報処理などの統計学的な扱いを学ぶ。						
到達目標	集団の統計量である平均、分散、標準偏差の算出方法と、それらの意味を理解できる。 2つの集団の平均を比較するt検定（対応なし、対応あり）において、信頼区間、有意水準の違いによる、帰無仮説にたいする破棄の可否を判断することができる。 2つのデータの相関の強さを決める相関係数、決定係数を計算し、無相関検定により相関の可否を判断することができる。						
授業計画	<p>第1回:Orientation／統計学とはなに？／ 教科書『統計学がわかる』のハンバーガー店のポテトの売上を例題に ／第1章、ポテトの長さの均一性[1/2]—「平均」</p> <p>第2回:第1章、ポテトの長さの均一性[2/2]—用語を知っておこう//度数分布、 「分散」、「標準偏差」；「偏差値」のマジック</p> <p>第3回:第2章、ポテトの本数[1/2]—「母集団」、「標本」、「抽出」、「推定値」</p> <p>第4回:第2章、ポテトの本数[2/2]—「区間推定」、「信頼区間」、 「t分布表と自由度」；「選挙速報」の怪</p> <p>第5回:第3章、ライバル店との売上高比較[1/2]—「仮説をたてる」、 「カイ2乗値」、「カイ2乗値の分布」</p> <p>第6回:第3章、ライバル店との売上高比較[2/2]—「カイ2乗検定と自由度」、 「有意水準」、「仮説検定」、「決断のとき」</p> <p>第7回:第4章、どちらの商品が人気?[1/2]—「対応のないt検定」、 「差の信頼区間」、「有意差」</p> <p>第8回:第4章、どちらの商品が人気?[2/2]—「t検定の実施」；「秘密?の有意差」</p> <p>第9回:第5章、ライバル店の人気の秘密は?[1/2]—「対応のあるt検定」</p> <p>第10回:第5章、ライバル店の人気の秘密は?[2/2]—「対応のあり/なしの比較」； 「こころの数値化?」</p> <p>第11回:『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】』のアイスクリーム店の売り上げを例に。 第1章、最高気温と客数の関係を知りたい—「散布図と相関」</p> <p>第12回:第2章、相関の強さを知りたい[1/2]—「相関係数」</p> <p>第13回:第2章、相関の強さを知りたい[2/2]—「相関係数の意味を考える」</p> <p>第14回:第3章、その相関係数に意味はあるのか?—「無相関検定」</p> <p>第15回質疑応答と試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	特に必要ないが、次のURLで学習することが望ましい。 <a href="http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger/index.html">http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger/index.html</a> <a href="http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/index.html">http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/index.html</a>						
授業方法	パワーポイントを使って分かりやすい授業を行ない、視覚的な理解を助けます。 教科書を軸にしつつ、毎回講義資料を配布して理解を深めます。 毎回、授業時間内に小テストを実施し、内容の理解を深めます。						
評価基準と評価方法	小テスト(40%)、期末試験(60%)の得点から理解度を評価する。 欠席時は、原則事前に連絡してください。理由無く後日提出した小テストの評価を減じます。 連絡なしでの欠席が6回を越えると単位認定から除外します。						
履修上の注意	授業および試験では、必ず計算機（ルート√計算機能あり）を持参して下さい。 90分間、授業に集中してください。 くらしの中で、どのように統計学が使われているか、どのように統計学を使うと暮らしが豊かになるかを考えてください。						
教科書	向後千春、富永敦子著『統計学がわかる』（技術評論社）						
参考書	向後千春、富永敦子著『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】』（技術評論社） 小島寛之著『完全独習統計学入門』（ダイヤモンド社） 柳谷晃著『統計解析の基本』（日本能率協会マネジメントセンター） 中西寛子著『統計学の基礎』（多賀出版）						

科目区分	教養系列／一般教養系列																								
科目名	景観論																								
担当教員	中林 浩					科目ナンバ-	F22020																		
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0																		
授業のテーマ	<p>世界と日本には多様な景観が存在することを画像を見てもらいます。農村・中小都市・大都市、そして途上国と先進国、いろいろですね。ただ、先進国の大都市の景観が中心の紹介になります。景観の保全をめぐる、各地でさまざまな形の努力がはられていることがわかります。それとかかわって景観法はじめ景観行政や文化財保護制度が発達してきた歴史を学びます。世界遺産についてもくわしく話します。</p> <p>むずかしそうな話もありますが、観光案内を見るように講義を受けてもらうのもこちらの意図するところですよ。どのような観点をもてば、より楽しい観光ができるのかを知ってもらいたいと考えます。またこうした態度をもつ観光客がより豊かな地域を育てることになります。</p> <p>とくに京都・大阪・神戸という関西の大都市とその周囲の都市景観について具体的な検討を行います。とりわけわたしがかかわった高層ビル建設反対運動などの紹介をします。</p> <p>映像をたくさん使う講義で、話の途中で画像をたくさん見せます。最後の30分は動画をほぼ毎回見せます。さいきんではテレビでも紀行というか地域を紹介した番組が増えましたね。動画がより景観を理解するのを助けます。たくさんストックがあるので、珠玉の景観動画をお楽しみください。</p>																								
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。																								
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。																								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 景観・風景とは</li> <li>2 いろいろな景観・農村編</li> <li>3 いろいろな景観・中小都市編</li> <li>4 いろいろな景観・大都市編</li> <li>5 景観保全・町並み保存運動の歴史</li> <li>6 景観法のしくみ+テスト1</li> <li>7 文化財行政の発展</li> <li>8 世界遺産制度のしくみ</li> <li>9 都市の世界遺産</li> <li>10各地の景観まとめ</li> <li>11観光・レクリエーションのあり方</li> <li>12京都の景観破壊——せつかくの文化財・自然環境がここまで壊されるとは</li> <li>13大阪の景観破壊——かつては「水の都」と称されていたのに</li> <li>14神戸の景観破壊——高架道路と高層ビルはひどいですね、デザイン都市？</li> <li>15景観問題のまとめ+テスト2</li> </ol> <p>15回でない構成にすると</p> <table border="0"> <tr> <td>A</td> <td>A1 景観・風景とは</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>A2 いろいろな景観</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>世界遺産制度のしくみ</td> <td>テスト1</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>景観保全・文化財行政の発展</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>景観法のしくみ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>景観問題</td> <td>テスト2</td> </tr> </table>							A	A1 景観・風景とは			A2 いろいろな景観		B	世界遺産制度のしくみ	テスト1	C	景観保全・文化財行政の発展		D	景観法のしくみ		E	景観問題	テスト2
A	A1 景観・風景とは																								
	A2 いろいろな景観																								
B	世界遺産制度のしくみ	テスト1																							
C	景観保全・文化財行政の発展																								
D	景観法のしくみ																								
E	景観問題	テスト2																							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。																								
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの講義です。																								
評価基準と評価方法	おおむね提出物で採点し、授業への参加の積極性を加味することもあります。おおむねというのは、そうですね、70%から95%でしょうか。シラバス内クイズ、「2回国境を越えないと海に出られない国はどこでしょう」。なぜこんなところでクイズをしているのかな。																								
履修上の注意	<p>まち歩きや旅行が好きなこと。</p> <p>学外に出ることもあります。調査は土曜日や日曜日に振り替えられることも多い。</p> <p>履修ガイドにあるEメールで連絡いただくのが望ましいのですが、facebook や LINE でもかまいません。オフィスアワーは金曜日12:10-13:10に641で。金曜日は午前中3年生のゼミ、午後4年生のゼミなのでその間、またその前後も641あたりにいることが多い。</p>																								

教科書	
参考書	授業中に紹介します。新書などですよく勧めるものがあります。

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	経済学						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	752320
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	「経済学的な考え方」を学ぶ						
授業の概要	経済学とはどのような学問かを考えることを導入部に、「経済学的な考え方」について、また経済のしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に講義します。そして現代社会におけるさまざまな経済事象や経済問題を考察する際、経済学の「概念装置」(基礎的なものとはいえ)を通してその本質の理解に一步近づければと考えています。新聞・TV・ネットなどで話題になっている経済トピックについて取り上げ、「経済学的な考え方」にもとづいて分かりやすく説明する予定です。						
到達目標	経済事象や経済問題をより深く理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、わたしたちにとって「経済」とは？</li> <li>2. 経済学的な見方・考え方：さまざまな経済学</li> <li>3. 簡単な経済学の歴史①：古典派経済学の現代性と限界</li> <li>4. 簡単な経済学の歴史②：古典派経済学批判～現代経済学</li> <li>5. 経済システムと組織①：市場のしくみ</li> <li>6. 経済システムと組織②：企業の役割・変化しつつある企業組織の現状</li> <li>7. マクロ経済学の基礎知識①：マクロ経済学とは何か／国民経済勘定について／経済成長率について</li> <li>8. マクロ経済学の基礎知識②：経済政策の必要性</li> <li>9. マクロ経済学の基礎知識③：財政政策と金融政策</li> <li>10. 開放経済のマクロ経済学</li> <li>11. ミクロ経済学の基礎知識①：ミクロ経済学とは何か／消費者の行動</li> <li>12. ミクロ経済学の基礎知識②：企業の経済行動</li> <li>13. ミクロ経済学の基礎知識③：価格と生産量の決定：市場</li> <li>14. ミクロ経済学の基礎知識④：市場メカニズムは効率的か？</li> <li>15. 経済のグローバル化とその功罪 およびまとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	つね日頃からインターネット・新聞・テレビなどを通して現代の経済の問題や出来事について関心を向け、その内容理解に努めてください(確認テストなどでたずねます)。						
授業方法	極力双方向の授業を目指します。内容理解と知識の整理のために、できるだけ頻回に確認テストを実施する予定です。そのさいに、現在の経済にかかわる主要な問題や出来事についても出題する予定です。またその解説も平明に行うつもりです。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%(チェックシート・発表)						
履修上の注意	「現代社会と経済」を履修済みかあるいは経済学に積極的関心のある者が履修することが望ましいです。なるべく理解度を確認しながら進むつもりなので講義スケジュールの順序・かける時間に多少の異同はあります。授業マナーをしっかり守る〔私語・途中退出・遅刻は厳禁〕。提出物を求められたときは期日厳守。						
教科書	プリント・資料などを配付						
参考書	井堀利宏著『図解雑学マクロ経済学』(ナツメ社) 鳴村・横山著『図解雑学ミクロ経済学』(ナツメ社) 若森・小池・森岡著『入門・政治経済学』(ミネルヴァ書房) 山田鋭夫著『レギュレーション理論』(講談社新書) J.スティグリッツ著『入門経済学』(東洋経済新報社)						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	Z51160
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	<p>社会生活において、また来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことから平明に解説をします。</p> <p>その際、できるだけ、日本経済に大きな関わりをもつと思われるトピックを新聞やネットから(ときには皆さんの関心事の高いテーマから)題材としてピックアップし、説明したいと考えています。</p>						
到達目標	経済に関心を持ち、経済の記事や報道の内容をある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 経済とは何か？誰のための経済か？—GNPとGNH</li> <li>2 「市場」のはたらきを学ぶ①</li> <li>3 市場の種類とそのしくみ②</li> <li>4 市場の限界③</li> <li>5 「企業」の役割を学ぶ①</li> <li>6 株式会社の基本的なしくみ②</li> <li>7 コーポレート・ガバナンスとCSR③</li> <li>8 経済における政府の役割①：経済政策</li> <li>9 経済における政府の役割②：社会政策</li> <li>10 「銀行」のしくみを学ぶ①</li> <li>11 日本銀行の役割②</li> <li>12 国際経済のしくみ①：交易</li> <li>13 国際経済のしくみ②：金融</li> <li>14 為替レートの変動がもたらすもの</li> <li>15 まとめとテスト</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>経済の記事やニュースなどに積極的に関心を向ける習慣をつける。 分からない事柄についてきちんと「問い」をたてて納得のいく答えを導こうと努力をしてください。</p>						
授業方法	<p>極力双方向をめざします。 理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。</p>						
評価基準と評価方法	期末試験70%、平常点30%(チェックシート・発表)						
履修上の注意	<p>授業マナーをしっかりと守る(私語・途中退室・遅刻は厳禁)。 積極的に授業に臨まれることを希望します。</p>						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	Z51160
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	<p>社会生活において、また来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことがらから平明に解説をします。</p> <p>その際、できるだけ、日本経済に大きな関わりをもつと思われるトピックを新聞やネットから(ときには皆さんの関心事の高いテーマから)題材としてピックアップし、説明したいと考えています。</p>						
到達目標	経済に関心を持ち、経済の記事や報道の内容をある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 経済とは何か? 誰のための経済か?—GNPとGNH</li> <li>2 「市場」のはたらきを学ぶ①</li> <li>3 市場の種類とそのしくみ②</li> <li>4 市場の限界③</li> <li>5 「企業」の役割を学ぶ①</li> <li>6 株式会社の基本的なしくみ②</li> <li>7 コーポレート・ガバナンスとCSR③</li> <li>8 経済における政府の役割①: 経済政策</li> <li>9 経済における政府の役割②: 社会政策</li> <li>10 「銀行」のしくみを学ぶ①</li> <li>11 日本銀行の役割②</li> <li>12 国際経済のしくみ①: 交易</li> <li>13 国際経済のしくみ②: 金融</li> <li>14 為替レートの変動がもたらすもの</li> <li>15 まとめとテスト</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>経済の記事やニュースなどに積極的に関心を向ける習慣をつける。 分からない事柄についてきちんと「問い」をたてて納得のいく答えを導こうと努力をしてください。</p>						
授業方法	<p>極力双方向をめざします。 理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。</p>						
評価基準と評価方法	期末試験70%、平常点30%(チェックシート・発表)						
履修上の注意	<p>授業マナーをしっかりと守る(私語・途中退室・遅刻は厳禁)。 積極的に授業に臨まれることを希望します。</p>						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	Z51150
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	<p>授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。</p> <p>新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。</p>						
到達目標	政治に関心を持ち、政治報道や記事についてある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに：「政治」とは何だろう</li> <li>2 民主主義再考(最高?)</li> <li>3 民主主義の歴史をふり返る</li> <li>4 「保守」「革新」という考え</li> <li>5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型</li> <li>6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴</li> <li>7 政治と国家(1)：国家機能の変遷</li> <li>8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割</li> <li>9 世論の支配とマスメディア</li> <li>10 日本の行政改革・司法改革とその問題</li> <li>11 歴史認識とナショナリズム</li> <li>12 日本と中国・北朝鮮・韓国・ロシア</li> <li>13 日本と米・欧</li> <li>14 日本とイスラーム諸国</li> <li>15 まとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	新聞・テレビ・ネットの政治報道に目を向ける習慣をつけてください。						
授業方法	極力双方向を目指したいと思います。 理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%(チェックシート・発表)で評価します。						
履修上の注意	理解度を測りながらすすむつもりなので、講義スケジュールの順序・かける時間などに多少の変更ができる可能性があります。 提出物を指示された場合は期日を厳守すること。 問題意識をもって、積極的に授業に参加されることを期待します。						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	Z51150
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	<p>授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。</p> <p>新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。</p>						
到達目標	政治に関心を持ち、政治報道や記事についてある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに：「政治」とは何だろう</li> <li>2 民主主義再考(最高?)</li> <li>3 民主主義の歴史をふり返る</li> <li>4 「保守」「革新」という考え</li> <li>5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型</li> <li>6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴</li> <li>7 政治と国家(1)：国家機能の変遷</li> <li>8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割</li> <li>9 世論の支配とマスメディア</li> <li>10 日本の行政改革・司法改革とその問題</li> <li>11 歴史認識とナショナリズム</li> <li>12 日本と中国・北朝鮮・韓国・ロシア</li> <li>13 日本と米・欧</li> <li>14 日本とイスラーム諸国</li> <li>15 まとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	新聞・テレビ・ネットの政治報道に目を向ける習慣をつけてください。						
授業方法	極力双方向を目指したいと思います。 理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%(チェックシート・発表)で評価します。						
履修上の注意	理解度を測りながらすすむつもりなので、講義スケジュールの順序・かける時間などに多少の変更ができる可能性があります。 提出物を指示された場合は期日を厳守すること。 問題意識をもって、積極的に授業に参加されることを期待します。						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	Z51170
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	メディア・コミュニケーションの科学						
授業の概要	ICT（情報通信技術）の急速な発展、それに伴ったデジタルデバイスの進展やアプリケーションの普及など、インターネットを中心にメディアを取り巻く環境はめまぐるしく変化を続けている。情報量が増大する中、利用者側も情報取得経路や購買行動が変わるなど大きな影響を受けており、今後も変化していくことが予想される。本講義では、具体的な事例や関連ニュースなどを取り上げながら、今日のメディア・コミュニケーションに対する理解を深めていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション論についての基本的な知識を習得できます。</li> <li>・メディア・コミュニケーションを分析するためのさまざまな視角を知ることができます。</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イン트로ダクション</li> <li>2 コミュニケーションとは何か</li> <li>3 メディアとは何か</li> <li>4 文字のコミュニケーション</li> <li>5 映像のコミュニケーション</li> <li>6 ソーシャルメディアとコミュニケーション</li> <li>7 メディア・コミュニケーションの影響力</li> <li>8 流行と普及</li> <li>9 うわさ</li> <li>10 広告とコミュニケーション</li> <li>11 広報とコミュニケーション</li> <li>12 アートとコミュニケーション</li> <li>13 災害とコミュニケーション</li> <li>14 レポート検討会</li> <li>15 まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。						
授業方法	講義を中心とします。						
評価基準と評価方法	レポート70%、平常点（授業での発言や参加度）30%、で評価します。						
履修上の注意	私語は厳禁ですが、授業に関する積極的な発言は歓迎します。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	辻大介・是永論・関谷直也、『コミュニケーション論をつかむ』、有斐閣、2014年						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養I／（哲学から考える世界と人間）						
担当教員	木下 昌巳					科目ナンバ-	251270
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	哲学とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対して全体的かつ根源的な認識を獲得しようとする学問です。究極的な意味において、世界は何からできているのか？私たち人間は、何をどこまで知ることができるのか？そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか？このような問いに正面から取り組み、可能な限りその解答を得ようとするのが哲学です。この授業では、古代ギリシアと近世ヨーロッパの主要な哲学者の思想を取り上げ、哲学という学問の問題意識と代表的な思想家の思想内容について学びます。						
授業の概要	授業の前半では、西洋において哲学的思考が誕生した紀元前5世紀から4世紀の古代ギリシアの哲学者の思想を、後半では、西洋における哲学的思考の最盛期と言える17世紀から19世紀までに登場した重要な哲学者の思想を年代順に取り上げ、彼らの問題意識と思想をできるだけわかりやすく講義します。授業では、適宜、授業のテーマと関連する現代的なトピックを扱った参考資料を配布して、そのことからの哲学的意味をあきらかにして、われわれが生きているこの現代における哲学的思考の意義と必要性を解説します。						
到達目標	哲学を学ぶことは、過去の哲学者の人名や書物の名前を暗記することではありません。哲学は、私たち自身が生きていくなかで直面するさまざまな問題に対して、より根本的な視点に立ち戻って、事柄の根源的な意味を洞察しようとする学問です。私たちが直面する問題に対して、ただ習慣的に対応するのではなく、立ち止まり論理的・反省的にその問題自体の意味を深く考えるときに、哲学という営みが始まります。日常においてそれを当たり前と感じていることを考え直し、私たちが生きている世界と自分自身の在り方について、全体的かつ理論的な把握ができるような考え方を身につけることを目指します。						
授業計画	01 「哲学」とは何か？－「知を愛する」という営み 02 「哲学」の始まり－古代ギリシアと哲学 03 万物の始源を求めて－ミレトス派の問い 04 アキレスと亀－エレア派の思想 05 「よく生きる」ために－ソクラテスの生き方 06 プラトンのイデア論 07 「万学の祖」－アリストテレス 08 デカルトの哲学1－「私は考える。ゆえに私は存在する。」 09 デカルトの哲学2－心身二元論 10 ロックの経験論－生得観念とタブラ・ラサ 11 ヒュームの経験論－因果律の否定 12 カントの哲学－コペルニクス的転回 13 ニーチェの思想1－道徳の系譜学 14 ニーチェの思想2－貴族道徳と奴隷道徳 15 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の前にシラバスで示されたテーマに対応するテキストの箇所を読んでおくこと。そして、授業の後に自分でもう一度テキストを開いて、授業で扱った箇所を読み返して、授業で解説されたことの内容を確認し、理解を深めるようにしましょう。哲学書の原典を独力で読みこなすことは困難ですが、授業で得た知識をもとにして、授業で解説した思想家の著作や哲学に関する解説書を自分の手にとってゆっくりでもよいですから読むことによって、授業の内容の理解を深めることを求めます。						
授業方法	講義形式でおこないます。毎回必ずテキストを持参してください。						
評価基準と評価方法	テスト70点、平常点30点（授業内提出物と授業態度）の100点満点で評価します。						
履修上の注意	「哲学」というものにたいして、「難しい」、「理屈っぽい」というイメージをもつ人がいます。しかし、われわれが生きていくなかで直面するさまざまな問題は、突き詰めれば「世界」や「人間」というものをどのように理解するのかという哲学的問題とつながっています。本当の意味での視野の広さ、ものを考える力というものを身につけることに貢献すると信じます。哲学という学問は、大学という自由な環境においてのみ学ぶことのできる学問です。						
教科書	伊藤邦武『物語 哲学の歴史－自分と世界を考えるために』（中央公論新社、2012 ISBN:978-4121021878）						
参考書	『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社、2007-2008） 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史です。内容は細かいですが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識が得られます。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養II／（進化から考える人間らしさ）						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバ-	251280
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間らしさを進化から考える						
授業の概要	科学・技術が急速に発達し、社会生活も大幅に変化した現代であるからこそ、自己形成と社会的実践に通底する基盤的能力ともいえる「教養」が必要になっている。「教養」とはまた、多くの情報に溢れた現代社会において、必要な知識を選択したり、応用したり、あるときは物事に対して論理的に批判するための豊かな知識ともの見方を与えてくれる。この授業では、人間自身を対象とした科学的探求について学び考えながら、現代的教養の基礎を築くことを目的とする。						
到達目標	人間の進化について基本的な知識を持ち、人間の身体や心の働きを進化論的視点から説明できる。現代社会とそこで生きる人間の問題を進化論的視点から考えることができる。						
授業計画	第1回 人間の悩みを人類進化から考える 第2回 人間の祖先はサルって本当？ 第3回 人類進化の始まり 第4回 “原始人”て、どんな人？ 第5回 初期ホモ属 第6回 ホモ・サピエンス 第7回 人類の世界への拡がり 第8回 人間が見る世界、聞く世界 第9回 人間の知らない世界 第10回 道具使用と模倣 第11回 協力と援助 第12回 協力と援助の続きと達成度確認試験 第13回 なぜ感情があるのか 第14回 喜びと親しさ 第15回 複雑な感情の進化 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間90分）。特に関心を持った部分について参考書を読む（学習時間90分）						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出するリアクションペーパーの評価 50% 試験 50%						
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。						
教科書	使用しない						
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「人類の進化」						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養Ⅳ／（裁判員のための法律入門）						
担当教員	嶋矢 貴之					科目ナンバ-	752340
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	裁判員裁判と日本の刑事法入門						
授業の概要	2009年5月から、裁判員裁判が導入され、重要な刑事裁判に一般市民（みなさんも含まれます）が参加することとなりました。本講義は、これに関わるための基礎知識、具体的には、裁判員裁判のやり方、わが国の犯罪状況、わが国の刑法等に関するおおよその理解を得て、社会生活上・学問上、いずれにも有益な基礎教養の習得を目指すものです。日々起こる犯罪について、色々な角度から考えてみましょう。						
到達目標	今後裁判員に選ばれて参加するための基礎的な知識を得るのみでなく、日本の犯罪に関する事実や、刑事法に関する知識を獲得し、犯罪報道や社会問題をよりよく理解し、考えられるようになることを目指します。						
授業計画	1 法律とはどのようなものか？－ガイダンス 2 裁判員になるまで－いつ、誰が呼ばれて、どこに行くの？ 3 裁判員裁判の仕組み 4 裁判官、検察官、弁護士、警察官の仕事 5 刑法の基本原則－人を処罰するためのルール 6 日本の犯罪状況はどうなってる？ 7 少年と犯罪－子供だから、か、子供でも、か？ 8 精神障害と犯罪－心神喪失って何？ 9 交通事故と犯罪－わざとじゃなくても～過失犯について 10 犯罪死亡被害と損害賠償－命の代償？ 11 ストーカー対策と犯罪 12 日本の刑罰（1）－刑罰はどんなことをするの？ 13 日本の刑罰（2）－死刑について 14 隣の犯罪者？－刑務所を出た後の犯罪者 15 まとめと試験  * 授業において関心のあるニュース・事件を報告してもらいそれを授業の素材にします。テーマの順番や内容を報告に応じて入れ替えます。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：法律に関する基本的知識は不要ですが、各回適宜指示する文献や報道に目を通してください。 授業後学習：授業後に復習して、習った範囲で法律に関する基本的知識を定着させるとともに、法律文献や裁判に関する報道に積極的に目を通すようにしてください。						
授業方法	講義形式で行うことを予定していますが、参加人数によっては興味のある犯罪や事件に関する報告を求め・質問の受付を行いながら、授業を行います。犯罪に関するニュースを見て、わからないところ、疑問に思ったところを質問してください。裁判員に関する映像資料の視聴とそのレポート提出も予定しています。						
評価基準と評価方法	期末試験50%、平常点（レポート2～3回）50%による。到達目標の達成状況をレポートや期末試験で測ることで評価をします。						
履修上の注意	法律の知識は全く不要ですが、法律や裁判、社会問題に関心をもって積極的に参加してください。						
教科書	なし。 ただし、添付ファイルの条文をプリントアウトして、毎回必ず持参してください。						
参考書	松井茂記ほか著・はじめての法律学〔第5版〕（有斐閣、2017）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の教養V／地域研究I／（現代の東アジア）						
担当教員	根岸 智代					科目ナンバ-	Z52350
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	アジア諸国の歴史と現状及び日本との関係を考察する。						
授業の概要	中国をはじめとするアジア諸国の現状を文化や歴史的視点などから考察する。アジア諸国の歴史や現在抱えている問題点、日本との関係などについて提示する。そこから、今後アジア諸国と日本との関係をどのように築くべきかという問題について理解を深めることを目的とする。						
到達目標	現代東アジア地域の実情を理解し、日本とのかかわりを考察するための視点を獲得できる。						
授業計画	第1回 中国 中国概観 第2回 中国の近現代 中華民国期から中華人民共和国へ 第3回 現代中国 1950年代～1970年代の中国 第4回 現代中国 改革開放初期の中国 第5回 現代中国 天安門事件以後の中国 第6回 台湾 (1) 台湾近現代史 第7回 台湾 (2) 戦後台湾の発展 第8回 香港 植民地期の香港の歴史と、中国への返還 第9回 香港・マカオ マカオの歴史 第10回 シンガポール シンガポールの歴史 第11回 韓国 (1) 戦後韓国の発展と日韓関係 第12回 韓国 (2) 韓国の文化事情 第13回 ベトナム (1) ベトナムの歴史 第14回 ベトナム (2) ベトナムの文化事情 第15回 今までのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日頃から新聞やテレビ等で、東アジア及びアジア全般の情報を収集するよう希望する。						
授業方法	講義形式で行う。映像や画像を用いて説明し、授業内容に沿ったレジュメを用意する。						
評価基準と評価方法	論述式の試験（70%）と小テストやレポート（30%）で評価する。						
履修上の注意	積極的に授業に参加することを希望する。						
教科書							
参考書	授業中にプリント等で紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	現代の倫理						
担当教員	濱崎 雅孝					科目ナンバ-	Z51010
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会の諸問題についての倫理的考察						
授業の概要	グローバル化が進む現代社会では、自分の意見をしっかりと持ち、それを他人にも分かる形で表現することが求められます。 この授業では、受講者一人一人がこれから社会で直面すると思われる倫理的問題を取り上げ、それについて各自が自分の意見を持つことができるように指導していきます。また、その自分の意見を、異なる世代、異なる文化背景を持つ人たちに正しく伝える技術を学びます。						
到達目標	社会に出たときにぶつかるであろう様々な人間関係の問題に対して、倫理的に正しく対処できるようになる。						
授業計画	第1回 善悪について、倫理とは何か、道徳とは何か 第2回 人間について、私とは誰か、人間らしい生き方とはどういうものか 第3回 犯罪について、少年犯罪は増えているのか、その原因は何か 第4回 社会について、監視社会は平和なのか、社会を作っているのは誰か 第5回 殺人について、なぜ人を殺してはいけないのか 第6回 死刑について、死刑制度は必要か、裁判員制度は必要か 第7回 自殺について、死にたいと言う人を助けることは正しいか 第8回 教育について、なぜ勉強しなければいけないのか、義務教育は必要か 第9回 女性について、男女平等社会は実現できるのか、実現すべきなのか 第10回 母性について、母親になるとはどういうことか、母親の役割とは何か 第11回 父性について、父親の役割とは何か、父親は必要か 第12回 不倫について、不倫はなぜ悪いことなのか、浮気をするのは人間の本能か 第13回 麻薬について、麻薬の恐ろしさと、その犯罪性について 第14回 震災について、阪神大震災と東日本大震災、原発は必要か 第15回 戦争について、なぜ人類は戦争をやめないのか、これからの世界はどうなっていくか						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞、雑誌、ネットニュースなどで、授業で扱った内容に関わるものを見つけたら、目を通すようにする。 1日10分以上は、そのような時間を持つことをお勧めします。						
授業方法	講義形式で行いますが、毎回小レポートを書いてもらいます。						
評価基準と評価方法	平常点：30点（毎回の小レポート2点×15回） 期末試験：70点						
履修上の注意	毎回、深刻な事件を題材とするので、上の授業計画に目を通して不快感を持ってしまう人にはお勧めできません。 事前に自分で判断してから履修するようにして下さい。						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。						
参考書	講義の中で紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	神戸研究総論						
担当教員	単位認定者：田附 敏尚					科目ナンバ-	752330
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	歴史・文学・芸術文化などの面からの「神戸」探究						
授業の概要	本学の位置する「神戸」は「モダンな街」として語られるが、150年前の「神戸開港」以前にも長い歴史があり、各時代においてさまざまなドラマを展開してきた。そのような「神戸」の様々な面を、本学の教員と神戸市立博物館の学芸員がそれぞれの専門分野から多角的に論じ、その姿を明らかにする。						
到達目標	本学の所在地「神戸」について、各回で学んだ内容を理解し、多角的にその特徴や魅力を述べることができる。						
授業計画	<p>【総論】</p> <p>1 「神戸研究総論」について（本講義の目的と概要について解説する。）</p> <p>【歴史】</p> <p>2 考古学：ゲストスピーカーによる講義 （六甲山系南麓の弥生時代の遺跡に着目し、高地性集落と銅鐸の謎について解説する。）</p> <p>3 中世史：ゲストスピーカーによる講義 （中世の兵庫津の歴史を中心に、古文書や古記録を基に考察する。）</p> <p>4 近世史：ゲストスピーカーによる講義 （近世後期～幕末期の神戸の歴史的特質を資料に基づいて論じる。）</p> <p>5 近代史：ゲストスピーカーによる講義 （近代神戸の大きな特徴であり、神戸のイメージを形成するもととなった旧神戸外国人居留地について、その成り立ちから返還までの歴史を居留地に関わった人物や建築物等に注目して紹介する。）</p> <p>【文学】</p> <p>6 古典文学：田中 まき （『伊勢物語』や『源氏物語』で神戸が舞台となっている話を紹介し、平安時代の神戸の姿を考察する。）</p> <p>7 近現代文学：青木 稔弥 （1900年9月9日、夏目漱石は、諏訪山温泉に泊まった。神戸市街を俯瞰できる今は存在しない温泉である。漱石と神戸の関係を考える。）</p> <p>8 方言：田附 敏尚 （神戸周辺で使われていることばの変容について、複数の言語地図等から考察する。）</p> <p>【芸術文化】</p> <p>9 食生活：江 弘毅 （開港以来の神戸の洋食の系譜を概説する。）</p> <p>10 建築・デザイン：中林 浩 （神戸にも人びとの暮らしのなかで育まれた愛すべき景観が多くあることを紹介する。）</p> <p>11 ファッション：徳山 孝子 （“神戸ファッション”イコール“おしゃれ”というイメージを歴史的背景から読み解く。）</p> <p>12 神戸の美術コレクターたち：ゲストスピーカーによる講義 （明治から昭和初期にかけて活躍した神戸ゆかりのコレクター（川崎正藏、松方幸次郎、池長孟）の功績と意義を探る。）</p> <p>13 神戸のカミとホトケ古の折りのかたち：ゲストスピーカーによる講義 （近代以降のイメージが強い神戸に息づく古（いにしえ）のカミとホトケの姿を探る。）</p> <p>14 神戸の書と藝術：丸山 果織 （書が海外でも評価されるきっかけとなった、神戸の書家と画家の交流について論じる。）</p> <p>15 神戸のイメージ：西川 純司 （映画やドラマ、漫画に描かれた神戸のまちのイメージを辿る。）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前：授業計画に従って、次回授業であることを調べておく。（学習時間：90分）</p> <p>授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：90分）</p> <p>授業で取り上げた場所へ足を運び、実感することも望ましい。</p>						
授業方法	講義（オムニバス）						
評価基準と評価方法	<p>各回の課題・レポート70%、平常点30%</p> <p>・各回で簡単な課題を課し、各回で評価する。各回の評価を単位認定者が取りまとめ、総合的に最終評価を下す。</p> <p>・平常点はリアクションペーパーや授業態度によって総合的に判断する。</p>						

履修上の注意	毎回、授業内（授業後の場合もある）で課題・レポートを提出する。
教科書	使用しない。プリントを配布することがある。
参考書	授業時に随時紹介する。

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	小林 北斗					科目ナンバ-	Z51230
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの健康に対する臨床心理学的考察						
授業の概要	私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理学に関する基礎知識およびアプローチについて説明することができる。</li> <li>自分や周囲に対するメンタルヘルスについて考えることができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 本講義についての概要 第2回 ストレスに関する基本的な考え方 第3回 いろいろな精神疾患①（統合失調症、うつ病） 第4回 いろいろな精神疾患②（不安障害、強迫性障害、身体表現性障害、摂食障害） 第5回 いろいろな精神疾患③（発達障害、人格障害） 第6回 いろいろな精神疾患④（アルコール・薬物依存） 第7回 心理テストの紹介①（知能検査、質問紙法） 第8回 心理テストの紹介②（投映法） 第9回 心理療法の紹介①（精神分析、来談者中心療法） 第10回 心理療法の紹介②（行動療法、認知行動療法） 第11回 心理療法の紹介③（家族療法、ブリーフセラピー） 第12回 人の強みについてーポジティブ心理学の紹介① 第13回 人の強みについてーポジティブ心理学の紹介② 第14回 講義全体の整理とまとめ 第15回 講義の理解度の確認 試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞、テレビなどで取り上げられているメンタルヘルスや講義で話された内容などを積極的に調べてほしい。						
授業方法	適宜、資料を提示し、その資料に沿って講義を行う。また様々な心理尺度を使い、経験してもらう。						
評価基準と評価方法	試験60%、各回提出のリアクションペーパー（受講コメント、質問）による平常点40%						
履修上の注意	私語厳禁						
教科書							
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	藤野 真弓					科目ナンバ-	251230
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	より良く生きるために、こころのしくみやこころの病についての知識を得る。						
授業の概要	私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。						
到達目標	精神保健への理解を深め、自分なりにこころの健康について考えることができるようになる。						
授業計画	1 精神保健の概要 2 こころはどこにあるのか 3 性格とは 4 ストレスの正体とそのマネージメント 5 大切なものを失ったとき 6 コラージュづくり 7 睡眠 8 タイプA 9 神経症性障害 10 多重人格障害 11 ストレスが原因のこころの病気 12 こころの風邪 うつ病 13 自分づくりがうまくいかない！ 摂食障害 14 脳の不調和 統合失調症 15 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	配布したプリントの復習						
授業方法	毎回のテーマに沿った講義と、実際に課題に取り組んでレポートにまとめる作業をおこなう						
評価基準と評価方法	出席状況と授業中に課すレポートの評価（6割）、定期試験（4割）を総合評価する						
履修上の注意	出席とレポートを重視する。遅れてのレポートは認めない。30分以上の遅刻は、出席点を減点とする。						
教科書	毎回資料を配布する						
参考書	「学びを人生へつなげる家族心理学」 編著 土肥伊都子 教育情報出版 ISBN:978-4-905493-28-0						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	藤野 真弓					科目ナンバ-	251230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	より良く生きるために、こころのしくみやこころの病についての知識を得る。						
授業の概要	私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。						
到達目標	精神保健への理解を深め、自分なりにこころの健康について考えることができるようになる。						
授業計画	1 精神保健の概要 2 こころはどこにあるのか 3 性格とは 4 ストレスの正体とそのマネージメント 5 大切なものを失ったとき 6 コラージュづくり 7 睡眠 8 タイプA 9 神経症性障害 10 多重人格障害 11 ストレスが原因のこころの病気 12 こころの風邪 うつ病 13 自分づくりがうまくいかない！ 摂食障害 14 脳の不調和 統合失調症 15 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	配布したプリントの復習						
授業方法	毎回のテーマに沿った講義と、実際に課題に取り組んでレポートにまとめる作業をおこなう						
評価基準と評価方法	出席状況と授業中に課すレポートの評価（6割）、定期試験（4割）を総合評価する						
履修上の注意	出席とレポートを重視する。遅れてのレポートは認めない。30分以上の遅刻は、出席点を減点とする。						
教科書	毎回資料を配布する						
参考書	「学びを人生へつなげる家族心理学」 編著 土肥伊都子 教育情報出版 ISBN:978-4-905493-28-0						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	古典文学史／日本文学史A						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学の歴史を学び、それぞれの作品が生み出された歴史的な意味を考察する。						
授業の概要	日本文学がそれぞれの時代にどのように現れ、どのように受け入れられ享受されて来たのか考えたい。						
到達目標	古典文学史について理解し、その流れを説明できる。 古典文学作品の名称や作者名について説明できる。						
授業計画	第1回 時代区分と『古事記』『日本書紀』 第2回 『万葉集』 第3回 漢文学の隆盛と勅撰和歌集の成立 第4回 物語文学 第5回 女流日記・随筆 第6回 歴史物語 第7回 説話集 第8回 和歌と歌学 第9回 軍記物語 第10回 能・狂言 第11回 文学の大衆化（浮世草子） 第12回 俳諧と松尾芭蕉 第13回 浄瑠璃と歌舞伎 第14回 和歌と国学 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	古典文学史について理解できるよう、教科書を読む。 古典文学作品の名称や作者名について理解できるよう復習する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 小テスト 20% 取り組みの意欲など平常の姿勢 10%						
履修上の注意	遅刻・欠席をしないように努める。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	『原色 新日本文学史[増補版]』（文英堂）978-4-578-27192-5						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会学概論						
担当教員	藤岡 達磨					科目ナンバ-	Z51090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>「社会」について考える学問が社会学です。しかし、この「社会」とは何を指すのでしょうか。この「社会」は中学校や高校で勉強した社会科の授業の社会とは異なるものです。単純化していえば、人が集まって暮らす中で自然に形成されてきた部分、これが社会です。よく考えてみると、私たちの生活の大部分は、この社会からの影響を受けていることが分かります。言葉、経済制度、法律、習慣、文化・・・これらの物は私たちが集団で暮らす中で形作ってきた社会の断片たちです。この授業では現代社会に固有のトピックを用いて、社会学の基本的な考え方をみなさんに紹介していきます。</p>						
授業の概要	<p>現在私たちが当たり前だと思っていることは、意外と最近できたものだったりすることがある。例えばある研究によれば、1780年のパリでは1年間に生まれた2万1千人の子供のうち母親に育てられたのは、1000人以下であった。1000人は住み込みの乳母に、残りの1万9千人は里子に出された。この事例は私たちが今当たり前だと思っている親子関係のあり方が、ここ200年ほどの間に出現した比較的新しいものであることを示している。つまり、私たちの家族は昔からずっとこの形ではなかったし、今このような形態である必然性もないことになる。このような社会学の相対化する視点を通じて、現代社会とはどんな場所か、日本社会にはどんな特性があるのかについて取り上げていく。また、現代社会の特性を捉える軸として、マクドナルド化、感情労働、ロマンティックライデオロギー、親密圏などの社会学における代表的な考え方をを用いる。「社会学がどんな学問であるか」という感触をみなさんに届けたいと思います。</p>						
到達目標	<p>「社会」という感覚と「社会学」という見方を理解できる。      具体的には、社会とは何か？社会学とはどのように思考するのか？現代とはどんな時代か？      以上の点についてなんらかの自分なりの観点で考えことができる。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1：授業ガイダンス イントロダクション</li> <li>2：社会のとらえかた—社会を見る視点と方法：ブラック企業という現象を事例に</li> <li>3：社会のとらえかた—社会を見る視点と方法：現代日本における自殺の類型と『自殺論』</li> <li>4：人間関係から見る社会：もっとも身近な社会としての家族</li> <li>5：人間関係から見る社会：神話としての恋愛結婚と近代家族</li> <li>6：人間関係から見る社会：愛の共同体としての近代家族とその問題</li> <li>7：人間関係から見る社会：若者の友人関係の変化とキャラ的人間関係</li> <li>8：消費から見る社会：マクドナルド化する社会</li> <li>9：消費から見る社会：消費の合理化と非現実性産業</li> <li>10：消費から見る社会：記号消費とマスメディア化する現実感</li> <li>11：消費から見る社会：消費社会の貧困と意義喪失</li> <li>12：仕事からみる社会：日本社会と「就活」の現在</li> <li>13：仕事からみる社会：日本社会と会社主義</li> <li>14：仕事からみる社会：新たな労働の現れ—感情労働</li> <li>15：まとめ：社会を考える</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	参考書に挙げた文献を予め読んでおくと、より実りある授業になると思われる。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	<p>試験80%：A3サイズの回答用紙を用いた論述試験（60分）。持ち込みなし。ただし試験問題は予め授業中に提示する。</p> <p>平常点20%：授業内容に関係する小論述を毎時間配布し、知識の理解および、知識の応用の習熟について確認を行う。</p>						

履修上の注意	パワーポイントを板書代わりに使用します。必要に応じてノートを取るようになしてください。期末の定期試験は論述方式で持ち込み不可です。ただし、試験問題はできるだけ初期の授業であらかじめ受講生に公表します。試験で問われていることそのものは授業で扱いませんが、授業で習った知識を用いれば回答ができる問題になっています。授業で習っていることが試験問題とどう結びつくのかを意識しながら授業を聞いてください。
教科書	
参考書	G. リッツァ 『マクドナルド化する社会』 早稲田大学出版部 ISBN:4657994131 A. ギデンズ 『親密生の変容』 而立書房 ISBN:4880592080 A. R. ホックシールド 『管理される心—感情が商品になるとき』 世界思想社 ISBN:4790708039 E. デュルケム 『自殺論』 中央公論社 ISBN:4122012562

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会学概論						
担当教員	藤岡 達磨					科目ナンバ	Z51090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>「社会」について考える学問が社会学です。しかし、この「社会」とは何を指すのでしょうか。この「社会」は中学校や高校で勉強した社会科の授業の社会とは異なるものです。単純化していえば、人が集まって暮らす中で自然に形成されてきた部分、これが社会です。よく考えてみると、私たちの生活の大部分は、この社会からの影響を受けていることが分かります。言葉、経済制度、法律、習慣、文化・・・これらの物は私たちが集団で暮らす中で形作ってきた社会の断片たちです。この授業では現代社会に固有のトピックを用いて、社会学の基本的な考え方をみなさんに紹介していきます。</p>						
授業の概要	<p>現在私たちが当たり前だと思っていることは、意外と最近できたものだったりすることがある。例えばある研究によれば、1780年のパリでは1年間に生まれた2万1千人の子供のうち母親に育てられたのは、1000人以下であった。1000人は住み込みの乳母に、残りの1万9千人は里子に出された。この事例は私たちが今当たり前だと思っている親子関係のあり方が、ここ200年ほどの間に出現した比較的新しいものであることを示している。つまり、私たちの家族は昔からずっとこの形ではなかったし、今このような形態である必然性もないことになる。このような社会学の相対化する視点を通じて、現代社会とはどんな場所か、日本社会にはどんな特性があるのかについて取り上げていく。また、現代社会の特性を捉える軸として、マクドナルド化、感情労働、ロマンティックライデオロギー、親密圏などの社会学における代表的な考え方をを用いる。「社会学がどんな学問であるか」という感触をみなさんに届けたいと思います。</p>						
到達目標	<p>「社会」という感覚と「社会学」という見方を理解できる。      具体的には、社会とは何か？ 社会学とはどのように思考するのか？ 現代とはどんな時代か？      以上の点についてなんらかの自分なりの観点で考えことができる。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1：授業ガイダンス イン트로ダクション</li> <li>2：社会のとらえかた—社会を見る視点と方法：ブラック企業という現象を事例に</li> <li>3：社会のとらえかた—社会を見る視点と方法：現代日本における自殺の類型と『自殺論』</li> <li>4：人間関係から見る社会：もっとも身近な社会としての家族</li> <li>5：人間関係から見る社会：神話としての恋愛結婚と近代家族</li> <li>6：人間関係から見る社会：愛の共同体としての近代家族とその問題</li> <li>7：人間関係から見る社会：若者の友人関係の変化とキャラ的人間関係</li> <li>8：消費から見る社会：マクドナルド化する社会</li> <li>9：消費から見る社会：消費の合理化と非現実性産業</li> <li>10：消費から見る社会：記号消費とマスメディア化する現実感</li> <li>11：消費から見る社会：消費社会の貧困と意義喪失</li> <li>12：仕事から見る社会：日本社会と「就活」の現在</li> <li>13：仕事から見る社会：日本社会と会社主義</li> <li>14：仕事から見る社会：新たな労働の現れ—感情労働</li> <li>15：まとめ：社会を考える</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	参考書に挙げた文献を予め読んでおくと、より実りある授業になると思われる。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	<p>試験80%：A3サイズの回答用紙を用いた論述試験（60分）。持ち込みなし。ただし試験問題は予め授業中に提示する。</p> <p>平常点20%：授業内容に関係する小論述を毎時間配布し、知識の理解および、知識の応用の習熟について確認を行う。</p>						

履修上の注意	パワーポイントを板書代わりに使用します。必要に応じてノートを取るようになしてください。期末の定期試験は論述方式で持ち込み不可です。ただし、試験問題はできるだけ初期の授業であらかじめ受講生に公表します。試験で問われていることそのものは授業で扱いませんが、授業で習った知識を用いれば回答ができる問題になっています。授業で習っていることが試験問題とどう結びつくのかを意識しながら授業を聞いてください。
教科書	
参考書	G. リッツァ 『マクドナルド化する社会』 早稲田大学出版部 ISBN:4657994131 A. ギデンズ 『親密生の変容』 而立書房 ISBN:4880592080 A. R. ホックシールド 『管理される心ー感情が商品になるとき』 世界思想社 ISBN:4790708039 E. デュルケム 『自殺論』 中央公論社 ISBN:4122012562

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会心理学						
担当教員	藤田 弥世					科目ナンバ-	Z51110
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学概論						
授業の概要	「一人で仕事をしているときは怠けているが、他の人がそばにいと張り切って仕事をする」など、人の行動は「他者」や「社会」と個人の相互作用により変化する。社会心理学は、その背景にはどのような「ところ」の仕組みがあるか研究する学問である。本講義では、人の行動が「他者」や「社会」によってどのように変化するのか、またその背景にはどのような「ところ」の働きがあると考えられているのか、ということについて個人・対人・集団の3つのレベルに分けて解説する。						
到達目標	①社会心理学の基礎的な知識を説明することができるようになる。 ②自分や他者の行動を、社会心理学的な視点から考えることができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：社会心理学とはどのような学問か 第2回 個人①：社会的認知 第3回 個人②：感情 第4回 個人③：自己 第5回 対人①：他者評価 第6回 対人②：コミュニケーション 第7回 対人③：態度 第8回 対人④：援助行動と攻撃行動 第9回 集団①：集団と個人 第10回 集団②：ステレオタイプ・偏見 第11回 集団③：集団間葛藤 第12回 集団④：文化 第13回 Ex.：進化心理学 第14回 Ex.：社会神経科学 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：指定の参考書を読み、授業の内容にあらかじめふれておくことが望ましい。 授業後：授業資料や指定の参考書を読み返して内容を復習し、それが普段の日常生活とどのように関わっているか考えることが望ましい。						
授業方法	講義を中心に、ときに心理学調査を体験していただきます。また、試験日を除いて毎回の授業後には、ごく簡単なミニレポートを提出していただきます。						
評価基準と評価方法	ミニレポート45%・試験55%とします。						
履修上の注意	授業に関する質問は随時受け付けます。授業中・授業前後に直接質問する、ミニレポートで質問する、連絡先にメールを送る、等のどの方法で行って頂いても構いません。						
教科書	授業資料を配布します。						
参考書	1. 池田 謙一・唐沢 穰・工藤 恵理子・村本 由紀子（著）「社会心理学 (New Liberal Arts Selection)」有斐閣 ISBN 978-4-641-05375-5 2. 北村 英哉・内田 由紀子（編）「社会心理学概論」ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1059-5 他の参考書に関しては授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会生活Ⅰ（生活と家族）						
担当教員	竹田 美知					科目ナンバ-	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間関係について、その基本的単位である家族について理解する。現代家族の諸現象、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化、夫婦関係のライフコース上の変化、家族と地域社会ネットワークを考える。授業はライフコース上の諸問題とその対処方法を家族関係学観点から探る。						
授業の概要	社会における人間関係について、その基本的単位である家族から理解をすすめる。現代家族の諸現象である、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化など夫婦関係のライフコース上の変化を捉えつつ、家族と地域社会ネットワークを考える。授業では、ライフコース上の諸問題や男女平等に関する問題とその対処方法を家族関係学観点から、現代の家族関係の多様化を多角的にとらえる視点を育成し、支援や援助のサービスのあり方を検討する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齡化、少子化、晩婚化などの現代家族の問題を社会学の専門用語を使って説明できる。</li> <li>「家族に対する支援や援助サービスがどのように地域で行われているか」について調べてレポートを書くことができる。</li> <li>・現代家族について問題とされていることをグループで討論して発表することができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 人の一生と家族 第2回 青年期の自立と家族 第3回 家族の概念と定義 第4回 少子化とその原因分析 第5回 子どもの発達と親の役割 第6回 家族関係を分析する理論—役割理論— 第7回 家族関係を分析する理論—ジェンダー理論—（ゲストスピーカー招聘予定） 第8回 家族関係を分析する理論—ライフコース理論— 第9回 人間関係を分析する理論—コーホート理論— 第10回 高齡社会と家族 第11回 共生社会と福祉（高齡者福祉・児童福祉） 第12回 家族とグローバリゼーション 第13回 夫婦関係と法律 第14回 親子関係と法律 第15回 家族生活と社会・期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業前に、各回の授業で扱うテーマの箇所を予習する。（学習時間各60分） 授業後学習：第1回目は、グループディスカッションした結果と官庁統計データをもとに、女性のライフコースについてのレポートを作成する。第2回目は、わがまちの人口変動（少子化）と子育て支援について、出身地や居住地の人口変動を調べ、子育て支援対策についてのレポートを作成する。（学習時間各300分）						
授業方法	講義 ディスカッション：女性のライフコースについての調査結果を用いてグループでディスカッションを行う。 レポート提出：松蔭マナバを利用して、レポートを提出する。 プレゼンテーション：レポートの内容を提出後発表し、意見交換をする。						
評価基準と評価方法	小レポート、授業外レポート2回、発表と期末試験（授業中の小レポート・授業外レポート2回60% 期末試験40%） レポートは、評価基準を定めたルーブリック評価を行う。評価はマナバ上でフィードバックする。 期末試験は、到達目標に示されたように、家族社会学の専門用語の理解及び、現代家族問題解決についての知識、技能、態度が確認できる設問を用意する。試験結果を解説とともに返還する。						
履修上の注意	授業への参加が重要なので出席を重視する。開講授業回数数の3分の2以上の出席をすること。学外に出て、地域のデータを集めたり、フィールドワークをしその結果を報告することがある。それに伴う交通費や入場料が必要な場合がある。20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	よくわかる現代家族【第2版】神原文子、杉井順子、竹田美知						
参考書	特になし						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会生活II (神戸論)						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちとその特徴と魅力を概観する。						
授業の概要	この授業では、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。最初に、神戸の産業、生活様式から文化までを具体的な実例によって学ぶ。続いて、神戸の社会問題とその解決方法について理解する。さらに、得られた知見を他の都市社会に応用し、よりよい社会生活を送るための知識を習得する。最後に震災と復興を経験した都市として、神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。						
到達目標	(1) 都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。 (2) 神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。 (3) 神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくること						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業で何を学ぶか 第2回 神戸と開港 第3回 外国人居留地の歴史と現在 第4回 神戸の外国人とコミュニティー 第5回 神戸の近代建築 第6回 神戸の洋食〜外国料理 第7回 神戸の中国料理と南京町 第8回 神戸の洋菓子、パン 第9回 神戸の観光 (ゲスト・スピーカー招聘予定) 第10回 神戸の地勢、自然と公園 第11回 ファッション都市・神戸 第12回 神戸と阪神間モダニズム 第13回 阪神淡路大震災と神戸 第14回 メディアのなかの神戸 第15回 神戸流生活術						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	神戸の都市としての特徴や魅力を参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽…から抽出し、資料としてストックし、学習すること (1時間)。 その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること (1時間)。						
授業方法	講義とその都度の質問。 毎回、レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーを書いてください。 神戸の観光について「おとな旅、神戸」実行委員会ご担当の神戸市職員の方にゲスト講師に来ていただきます。						
評価基準と評価方法	期末試験50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答 (コール&レスポンス)、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書							
参考書	『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007339 『古地図で見る神戸』大国昌美著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343006035 『ミナト神戸の宗教とコミュニティー』関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007254 『神戸外国人居留地ージャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875210481 『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875211280						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	社会福祉概論						
担当教員	中村 和子					科目ナンバ-	251130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	身近な生活をテーマにした社会福祉制度の知識を習得し、社会福祉において「快い生活」とは何かを考えていく。						
授業の概要	社会福祉とは、障がい者と高齢者だけでなく全ての人を対象であることを日常生活の身近な社会福祉制度を学び、現在の社会問題を考え、調べることで知る機会を持つ。また、日本の超高齢社会に伴い介護現場での介護職の離職問題についても学生の目線から就労定着に何が必要かを考えて、関心を持つ機会とする。また、「人間とは何か」、「どう生きていくか」、「幸せとは何か」について考え、社会福祉を身近に捉えることを図る。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) グループワークと授業中で話し合いを通して、他者に自分の価値観や考え方を伝えることができ、他者の意見から学び、自分の考えを広げることができる。</li> <li>(2) 基本的な社会福祉制度を習得することができる。</li> <li>(3) 「快い生活」について自分の考えを他者に述べるができる。</li> <li>(4) 生活する中で、社会の問題について疑問を持ち、考え、改善、対策、調べるという行動をとれるきっかけとする。</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回 「履修上の注意」の説明 社会福祉とは何か（よりよい生活の確立と地域社会・サービスの保障）</p> <p>第2回 第1回の復習・快い生活とは・社会福祉とボランティア 障がい者と制度（障がい者と理念・身体障害者補助犬法）</p> <p>第3回 障がい者と制度（身体障害者補助犬法＜視覚教材学習＞・自分に何ができるかを考える・就労とジョブ・コーチ）</p> <p>第4回 障がい者と制度（就労とジョブ・コーチ＜視覚教材学習＞・自分の立場で何ができるかを考える） 家庭・家族と福祉1（高齢出産とダブルケアー子育てと介護・誕生死・自分の立場で考える）</p> <p>第5回 家庭・家族と福祉2（10代の「性と生」と特別養子縁組＜視覚教材学習＞・里親制度）</p> <p>第6回 家庭・家族と福祉3（貧困家庭ー絶対的貧困と相対的貧困・アメリカ社会の貧困家庭と人種差別＜視覚教材学習＞）</p> <p>第7回 家庭・家族と福祉3（生活保護制度）</p> <p>第8回 小テスト第1回 雇用と福祉（雇用と非正規雇用・就職氷河期・高齢者雇用・最低賃金）</p> <p>第9回 高齢者と福祉1（ウエルビーイング・生活と老後破たん・公的年金と誤算）</p> <p>第10回 高齢者と福祉1（公的年金について・年金の歴史・年金と自分自身のライフ・プランを考える）</p> <p>第11回 高齢者と福祉2（介護と介護問題・介護保険制度・日本の介護施設・徘徊の目的＜視覚教材学習＞）</p> <p>第12回 高齢者と福祉2（アメリカの或る介護施設の事例からー音楽療法と学生ボランティア・介護施設でのボランティアと介護職の離職について考える）</p> <p>第13回 グループワーク1（事前学習を活用した話し合い）</p> <p>第14回 社会福祉の歴史（第一次世界大戦後の昭和の福祉と平成の歴史）</p> <p>第15回 小テスト第2回・グループワーク2・事後学習記入と提出・まとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業に配布する「学習シート」の復習（小テスト・グループワーク・小レポートのために）</li> <li>(2) グループワークに活用する（提出）する事前学習のレポートに取り組む。</li> <li>(3) 小レポート、授業中の話し合い、視覚教材学習に関する質問用紙や感想メモに取り組む。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 講義型形式と双方向授業</li> <li>(2) 視覚教材学習（DVD、著書、写真、新聞スクラップ）</li> <li>(3) グループワークと話し合い</li> </ol>						
評価基準と評価方法	小テスト（2回の平均）40%、小レポート15%、平常点（グループワークに関する事前学習と内容、提出物、授業中の話し合いと視覚教材学習に関すること）45%						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 私語厳禁。</li> <li>(2) 積極的にグループワークと授業中の話し合いに参加する学生の受講を希望する（これに関しての書く作業も多いが、書くことと話し合いが苦手な学生の受講も期待する。不安な学生は授業の前後に相談可能）。</li> <li>(3) 事前に分かっている遅刻、早退は事前に理由を添えて担当者に伝える。</li> <li>(4) スマートフォンや電子機器等はカバンの中に入れて受講をお願いする（机の上にも置かない）。</li> <li>(5) 欠席5回以上（公的クラブの試合、公的学校の実習、就職活動等で欠席する学生は事前に担当者に授業前後に要相談）は最終成績は「不可」の対象（扱い）となる。</li> <li>(6) 最終成績評価は、提出物の提出、試験を受けた、話し合った等の「～したというだけ」では高い評価は得られず、その内容の具体的な説明や内容の出来栄による。</li> </ol>						
教科書	使用しない。授業最初に教科書代わりにプリント形式で「学習シート」を配布予定。						

参考書	(1) 「その子をください」 鮫島浩二、アスペクト (2) 「ほしになったぼくのおとうと」 鮫島浩二、アスペクト (3) 「引退犬命の物語」 沢田俊子、学研 (4) 「治療的音楽療法のススメ」 山崎郁子、共同医書
-----	---

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	食物と健康						
担当教員	原 正之					科目ナンバ-	Z61020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	食物の摂取、消化、吸収、代謝、しくみの解説と、現代の食物や健康維持に関わる話題（安全に健やかに食べる こと、栄養を摂ること、とは何か？）						
授業の概要	前半では食物の消化と吸収のしくみや、血液による栄養分の循環と老廃物の排泄について解説する。次に、蛋白質、糖質、脂質の代謝とこれに影響を与えるビタミンやホルモンの役割について解説し、さらに体外から取り込んだ薬物や異物の代謝についても触れる。代謝についてのこれらの基礎的な知識をふまえた上で、後半では脳神経系を介した食欲の調節機構、エネルギー代謝、人体の概日リズム（体内時計）、健康食品、食品の安全性についての話題など、いくつかの関心の高いトピックスについて内容を解説する。						
到達目標	健康な食生活や食品の安全性について、氾濫する宣伝に惑わされずに、科学的に正確な情報を求め、考える習慣を身につける。日常生活での健康維持にも関係のある問題として自ら考えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食物の消化と吸収のしくみ</li> <li>2. 栄養分の循環と老廃物の排泄</li> <li>3. 蛋白質の代謝</li> <li>4. 糖質の代謝</li> <li>5. 脂質の代謝</li> <li>6. 薬物や異物の代謝</li> <li>7. ミネラルの代謝</li> <li>8. ビタミンの役割</li> <li>9. ホルモン・自律神経の働きと恒常性</li> <li>10. 食欲の調節機構</li> <li>11. エネルギー代謝</li> <li>12. 健康食品について</li> <li>13. 生活習慣病</li> <li>14. 飲酒と喫煙</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞などで報道される食糧問題、農業問題、食品安全性、等についての記事に良く目を通して、必要であれば切り抜いておく。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（出席、授業態度、積極性など）50%と課題レポート提出50%により、総合的に評価する。						
履修上の注意	参考図書としては、健康食品などについてのいわゆるハウツー本等ではなく、食品科学や栄養学の基礎的な解説書や教科書を読むことを薦める。厚生労働省や農林水産省のホームページも参考になる場合がある。						
教科書	教科書は特に指定しない。						
参考書	基礎栄養学（池田彩子、鈴木恵美子、脊山洋右、野口忠、藤原洋子 編、新スタンダード栄養・食物シリーズ9、東京化学同人 ISBN978-4-8079-1669-6）。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	諸芸術の交流／比較文化IA						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	A32010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	19世紀から20世紀にかけての文芸の流れ						
授業の概要	20世紀初頭に始まった文学（小説）の変貌が、絵画、音楽、映画などの諸ジャンルの変貌と連動したものであったことを、有名作品を解説しながら跡付けて行く。						
到達目標	19世紀から20世紀にかけての文芸ジャンル変貌の流れを説明することができる						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入、授業計画の説明</li> <li>2. 19世紀小説の特徴 (1) バルザック</li> <li>3. (2) 写実主義の小説</li> <li>4. (3) 自然主義の小説</li> <li>5. 19世紀小説への疑問 (1) 全能の作者の問題</li> <li>6. (2) アンドレ・ジッドの『贋金つかい』</li> <li>7. (3) ニューヴォー・ロマン</li> <li>8. 20世紀イギリスの小説</li> <li>9. フランス印象派の絵画</li> <li>10. 19世紀末のヨーロッパ社会と音楽</li> <li>11. 第2次世界大戦前後のヨーロッパ社会と音楽</li> <li>12. 第2次世界大戦以前の映画</li> <li>13. ニューヴェルヴァーグ映画の革新</li> <li>14. ニューヴェルヴァーグとフランス文学</li> <li>15. まとめとテスト</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	普段から、できる限り、外国の文芸（美術、音楽、小説、演劇etc）に触れる。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点56%、テスト44%						
履修上の注意	欠席5回で失格とする。						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	心理学概論						
担当教員	中尾 美月					科目ナンバ-	Z51100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの基礎						
授業の概要	心とは何か考えるとき、最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識である。しかし、心と意識は同じではない。意識の及ぶ範囲には限界があり、私たちの心は意識していないところでもさまざまな行動として表れる。それゆえ、心と行動について学ぶ必要がある。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っている。この授業では心理学を概観し、普段あたりまえのように思っている心の働きの不思議について学ぶ。						
到達目標	心と行動についての基礎知識が身につく。 人に対するより深い理解と関心が持てるようになる。						
授業計画	第1講 心理学とは 第2講 知覚1 多義図形と錯視 第3講 知覚2 色知覚 第4講 記憶1 記憶のしくみ 第5講 記憶2 忘却 第6講 学習 条件づけ 第7講 性格1 質問紙法 第8講 性格2 投影法 第9講 心の健康1 ストレス 第10講 心の健康2 うつ病 第11講 心の健康3 心理療法 第12講 人間関係1 自己 第13講 人間関係2 恋愛 第14講 おわりに 第15講 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので、文献やインターネットを使って調べておく。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で配布したプリントを再読したり、紹介した参考文献を読んだりして学びを深める。授業で学んだ内容を日常生活の中で確認する。（学習時間：120分）						
授業方法	講義形式で行うが、適宜、体験学習を取り入れる。 基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。						
評価基準と評価方法	平常点30%、試験70% 平常点は毎回配付する感想カードで確認する。 感想カードに書かれたコメントや質問については、その一部を翌週の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	1. 基本的に、授業を聞きたい者にとって、邪魔になる行為を禁止する。 私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 2. 欠席時のプリントは再配布するが、空欄部分については各自で埋めること。						
教科書	テキストは使用しない。毎週プリントを配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	心理学概論						
担当教員	中尾 美月					科目ナンバ-	Z51100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの基礎						
授業の概要	心とは何か考えるとき、最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識である。しかし、心と意識は同じではない。意識の及ぶ範囲には限界があり、私たちの心は意識していないところでさまざまな行動として表れる。それゆえ、心と行動について学ぶ必要がある。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っている。この授業では心理学を概観し、普段あたりまえのように思っている心の働きの不思議について学ぶ。						
到達目標	心と行動についての基礎知識が身につく。 人に対するより深い理解と関心が持てるようになる。						
授業計画	第1講 心理学とは 第2講 知覚1 多義図形と錯視 第3講 知覚2 色知覚 第4講 記憶1 記憶のしくみ 第5講 記憶2 忘却 第6講 学習 条件づけ 第7講 性格1 質問紙法 第8講 性格2 投影法 第9講 心の健康1 ストレス 第10講 心の健康2 うつ病 第11講 心の健康3 心理療法 第12講 人間関係1 自己 第13講 人間関係2 恋愛 第14講 おわりに 第15講 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので、文献やインターネットを使って調べておく。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で配布したプリントを再読したり、紹介した参考文献を読んだりして学びを深める。授業で学んだ内容を日常生活の中で確認する。（学習時間：120分）						
授業方法	講義形式で行うが、適宜、体験学習を取り入れる。 基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。						
評価基準と評価方法	平常点30%、試験70% 平常点は毎回配付する感想カードで確認する。 感想カードに書かれたコメントや質問については、その一部を翌週の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	1. 基本的に、授業を聞きたい者にとって、邪魔になる行為を禁止する。 私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 2. 欠席時のプリントは再配布するが、空欄部分については各自で埋めること。						
教科書	テキストは使用しない。毎週プリントを配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ジェンダー論入門／女性論I						
担当教員	中原 朝子					科目ナンバ-	Z51240
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダーは、私たちが当たり前とってきた性に関する様々な思い込みを問い直す重要な概念である。「性」が社会的に構築されたものであるということを学問領域に持ち込む契機となったウーマン・リブの活動、そして女性学の成果を踏まえ、「性」をめぐる様々な社会問題、中でも家族や労働に関するジェンダーを中心に取り上げ、それに関わる論争や政策の変遷を学修する。						
授業の概要	本授業では、ジェンダー（社会的・文化的につくられてきた性差）を、その社会がどのように認識し、意味づけているかを明らかにし、日常生活の中にジェンダーがどのように浸透しているのかを見抜く視点を共有する。中でも、家族や労働におけるジェンダーを中心的に取り上げ、日本の家族および労働市場に、ジェンダーがどのように組み込まれているかを、家族政策および労働政策、職場の雇用管理を中心に検討する。						
到達目標	性をめぐる問題が、社会的に構築されたものであるということを理解できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業の目的、進め方、評価の方法等） 第2回 フェミニズムの思想 第3回 ウーマン・リブの活動 第4回 母性保護論争 第5回 主婦論争 第6回 家事労働論争 第7回 有償労働とジェンダー 第8回 無償労働とジェンダー 第9回 家計とジェンダー 第10回 家族政策とジェンダー 第11回 貧困・社会的排除とジェンダー（1） （貧困の概念：言説：計測方法） 第12回 貧困・社会的排除とジェンダー（2） （貧困の実態） 第13回 教育とジェンダー 第14回 災害とジェンダー 第15回 授業の全体のまとめとふりかえり						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テーマ毎に授業でとりあげる文献を示すので、読んでおくのが望ましい。						
授業方法	資料を用いた講義形式の授業とともに、ビデオ等の視聴も行う。						
評価基準と評価方法	課題提出（30%）、期末テスト（60%）、平常点（10%）から、判断する。 平常点は、授業での質問、コメントシートへの書き込み等、授業への積極的な取り組みから評価する。						
履修上の注意	授業中の私語は慎むこと。5回以上欠席した場合は単位認定をしない。						
教科書							
参考書							

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と健康						
担当教員	西川 央江					科目ナンバ-	Z61010
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	女性の心身の健康についての正しい知識と情報を得て、生涯にわたって女性の健康を維持増進させていくことについて理解を深める。						
授業の概要	健やかに生きるという事は、すべての人が互いに人権を尊重し、能力を十分に発揮することである。特に女性は妊娠・出産という男性と異なる特質を有しているため、心身の両面から配慮が必要になってくる。本授業では、基礎知識として健康概念を学習し、その理解を前提に、女性の生涯を通じた健康、さらに次世代の健康な育成について様々な観点から考える。そして、学んだ正しい知識・情報を基に、女性としての自身の健康をより向上させる実際の能力を身に付けることを学ぶ。						
到達目標	1. 女性の健康課題について理解を深めることができる 2. 女性の健康の保持と向上に必要な知識・情報について理解を深めることができる 3. 自分の健康の課題を見つけることができ、それに対して具体的な改善方法を実施できるようになる						
授業計画	第1回 女性の健康の概念と基本的理論（ジェンダー セクシャリティー） 第2回 女性の健康の概念と基本的理論（リプロダクティブ・ヘルス/ライフ） 第3回 生涯を通じた女性の健康（思春期までの成長発達） 第4回 生涯を通じた女性の健康（月経とホルモン） 第5回 生涯を通じた女性の健康（月経前緊張症 月経困難症） 第6回 生涯を通じた女性の健康（性感染症） 第7回 生涯を通じた女性の健康（妊娠） 第8回 生涯を通じた女性の健康（出産） 第9回 生涯を通じた女性の健康（避妊 中絶） 第10回 生涯を通じた女性の健康（子宮がん 乳がん 喫煙・薬物問題） 第11回 生涯を通じた女性の健康（ドメスティックバイオレンス） 第12回 生涯を通じた女性の健康（育児ストレス 児童虐待） 第13回 生涯を通じた女性の健康（閉経後の健康 血管・皮膚と骨・関節の健康） 第14回 生涯を通じた女性の健康（ライフワークバランスとメンタルヘルス） 第15回 まとめ 試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラバスを参考に次の講義内容に関係する情報をメディアや文献から得ておく。 そして、自分自身の健康状態を観察しておく。 授業中学習：講義内容を振り返りまとめる。 そして、自分自身の健康を保持、向上させる方法を実践する。						
授業方法	講義、視聴覚教材を用いた学習						
評価基準と評価方法	試験50% 課題レポート20% 講義へのリアクションペーパー30%						
履修上の注意	自分の心身の健康に関心をもち積極的に講義に参加してください。 成績評価は授業回数の2/3以上の出席をもって行います。						
教科書	資料プリント配布						
参考書	講義内で随時紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と法						
担当教員	海道 俊明					科目ナンバー	Z51260
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族をめぐる法律関係						
授業の概要	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、いわゆる親族・相続に関する法律論を素材としながら、女性を取り巻く法律関係について講義を行う。また、問題の解決に必要な限りで、一般的な法学知識（不法行為論や民事訴訟法上の一般的知識など）についても適宜取り扱う。講義では、設例を用いて各種法律問題について具体的イメージを持たせ、その上で教員が学生に質問を発する形式を採る。						
到達目標	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、家族をめぐる法律関係について基本的事項を理解した上で、個別の事案に対し具体的な解決方法を提示することができるようになる。						
授業計画	以下の要領で授業を実施する。 第01回 ガイダンス 第02回 婚姻（1）：法律婚の要件 第03回 婚姻（2）：法律婚の効果 第04回 婚姻（3）：事実婚 第05回 離婚（1）：離婚の手続・要件 第06回 離婚（2）：離婚の効果 第07回 実親子関係（1）：母子関係・父子関係の基本的ルール 第08回 実親子関係（2）：父子関係の応用的ルール 第09回 中間試験 第10回 実親子関係（3）：生殖補助医療等の問題 第11回 養親子関係（1）：普通養子 第12回 養親子関係（2）：特別養子 第13回 人の死と財産の承継（1）：相続 第14回 人の死と財産の承継（2）：遺言 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前配布プリントを読むこと。						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	中間試験（30%）及び期末試験（70%）を総合して評価する。						
履修上の注意	学期はじめに希望者を募り（パネル）、パネル学生と教師との対話によって授業を進めるので、学期を通じてパネル役を務め通した者には、期末試験において最大10を加点する。						
教科書	なし。						
参考書	・二宮周平「家族と法」（岩波新書、2007年） ・窪田充見「家族法」（有斐閣、2013年）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性と法						
担当教員	海道 俊明					科目ナンバー	Z51260
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族をめぐる法律関係						
授業の概要	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、いわゆる親族・相続に関する法律論を素材としながら、女性を取り巻く法律関係について講義を行う。また、問題の解決に必要な限りで、一般的な法学知識（不法行為論や民事訴訟法上の一般的知識など）についても適宜取り扱う。講義では、設例を用いて各種法律問題について具体的イメージを持たせ、その上で教員が学生に質問を発する形式を採る。						
到達目標	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、家族をめぐる法律関係について基本的事項を理解した上で、個別の事案に対し具体的な解決方法を提示することができるようになる。						
授業計画	以下の要領で授業を実施する。 第01回 ガイダンス 第02回 婚姻（1）：法律婚の要件 第03回 婚姻（2）：法律婚の効果 第04回 婚姻（3）：事実婚 第05回 離婚（1）：離婚の手続・要件 第06回 離婚（2）：離婚の効果 第07回 実親子関係（1）：母子関係・父子関係の基本的ルール 第08回 実親子関係（2）：父子関係の応用的ルール 第09回 中間試験 第10回 実親子関係（3）：生殖補助医療等の問題 第11回 養親子関係（1）：普通養子 第12回 養親子関係（2）：特別養子 第13回 人の死と財産の承継（1）：相続 第14回 人の死と財産の承継（2）：遺言 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前配布プリントを読んでもらうこと。						
授業方法	参加型講義（パネルに登録した者と私の間の対話を通じて授業を進める）。						
評価基準と評価方法	中間試験（30%）及び期末試験（70%）を総合して評価する。						
履修上の注意	学期はじめに希望者を募り（パネル）、パネル学生と教師との対話によって授業を進めるので、学期を通じてパネル役を務め通した者には、期末試験において最大10を加点する。						
教科書	なし。						
参考書	・二宮周平「家族と法」（岩波新書、2007年） ・窪田充見「家族法」（有斐閣、2013年）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	女性とメディア／女性論II						
担当教員	巽 真理子					科目ナンバ-	Z51250
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアにおける女性や男性のイメージとジェンダー規範						
授業の概要	複雑化する現代社会においては、人と社会のかかわりや時代の変化を敏感に察知し、多様な課題にも目配りのできる資質や能力がますます求められている。本講義では、そのなかでも、ジェンダーに着目する。メディア（新聞、ニュース、雑誌、広告など）が女性や男性のイメージをどのように描いてきたか検証し、その裏にはどんな社会構造の問題やジェンダーの固定観念があるのかを探っていく。また、アニメやドラマ、広告などの具体的な映像などを鑑賞しながら考察する。						
到達目標	さまざまなメディアにおける女性や男性のイメージを考察し、それを取り巻くジェンダー規範を認識することにより、自分らしい生き方を選択していくための知識や視点を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 メディアとジェンダーをどう学ぶか：メディアリテラシーという視点 第3回 マスメディアとジェンダー（1）新聞・テレビ 第4回 マスメディアとジェンダー（2）CM 第5回 雑誌とジェンダー（1）雑誌のしくみ 第6回 雑誌とジェンダー（2）育児雑誌 第7回 雑誌とジェンダー（3）ファッション誌 第8回 雑誌とジェンダー（4）教育誌 第9回 映画とジェンダー（1）描かれる家族像 第10回 映画とジェンダー（2）母親と子育て 第11回 映画とジェンダー（3）母親と仕事 第12回 アニメとジェンダー（1）描かれる家族像 第13回 アニメとジェンダー（2）メディアミックス戦略 第14回 ミニコミとジェンダー：ウーマンリブ～フェミニズム 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	関連する報道等について、積極的に情報収集すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	期末テスト（60％）・リアクションペーパーなどの平常点（40％）						
履修上の注意	私語厳禁。自分自身と関連づけて「脱常識」の視点で考え、積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。授業内容に関する質問は下記アドレスまで。 連絡先：mariko3112yousyo[at]gmail.com						
教科書	特になし						
参考書	授業中に適宜指示する						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子					科目ナンバ-	Z51040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	英米の児童文学を読む ―冒険物語を中心に―						
授業の概要	長く読みつがれてきた英米の絵本や幼年文学、長編児童文学の冒険物語を中心に、作品のなかで冒険の要素がどのように描かれ、それが子どもにとってどのような意味を持つのかを探る。また作品のなかの「ごっこ」遊びの冒険が登場人物の対立と協調にどのような役割を果たしているかを考察する。さらに作品に描かれる冒険が英米の歴史や社会をどのように反映しているかを探り、舞台となる土地の文化や風物にも触れることで、作品の背景を学ぶ。						
到達目標	英米の児童文学の冒険物語を学ぶことで、冒険物語の伝統や舞台となる土地と風景に関する関心と知識を養い、子どもにとっての冒険物語の重要性を学ぶことができる。また実際に作品の一部を読むことにより、作品に描かれる子どもの個性や心情を分析する力と、作者のメッセージを読み取る洞察力を養うことができる。						
授業計画	第1回：はじめに：児童文学と冒険物語について 第2回：英米の絵本における冒険1 昔話を中心に 第3回：英米の絵本における冒険2 さまざまな絵本 第4回：幼年文学 『クマのプーさん』の冒険 第5回：冒険物語のルーツ『ロビンソン・クルーソー』と『宝島』、アーサー・ランサムと『ツバメ号とアマゾン号』シリーズとその舞台について 第6回：『ツバメ号とアマゾン号』における「海賊」と「探検家」 第7回：『ヤマネコ号の冒険』における宝探し 第8回：『長い冬休み』における「北極探検」 第9回：『オオバン・クラブ物語』における鳥類保護 第10回：『海へ出るつもりじゃなかった』におけるリアルな冒険 第11回：『六人の探偵たち』における「探偵(真犯人捜し)」 第12回：『女海賊の島』における中国の女海賊 第13回：『シロクマ号となぞの鳥』におけるスコットランドのゲール人 第14回：『クロードアの秘密』における家出という冒険 第15回：『ふしぎの国のアリス』における冒険						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	テキストのなかの指定された章を読んでください。 図書館や文庫、書店などで、児童文学にふれる機会をもってほしい。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	レポート50%、絵本レポートや毎授業時の最後に提出してもらうミニレポートを含む平常点50%						
履修上の注意	1. 履修の対象者 児童文学に関心をもっている人を対象とします。 2. 履修上の注意 実授業数の三分の一を超えて欠席すると、受講資格を失います。 教員の連絡先または連絡方法：学習上の質問は授業終了後30分間、事前予約の上受け付けます。 テキストを必ず入手して授業に持ってきてください。						
教科書	『ツバメ号とアマゾン号上・下』アーサー・ランサム著 神宮輝夫訳 岩波書店 ISBN978-4-00-114170-2 C8397 ISBN978-4-00-114171-9 C8397						
参考書	『英語圏諸国の児童文学I[改訂版]―物語ジャンルと歴史―』日本イギリス児童文学学会編 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-06320-8						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子					科目ナンバ-	Z51040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	英米の児童文学を読む ―冒険物語を中心に―						
授業の概要	長く読みつがれてきた英米の絵本や幼年文学、長編児童文学の冒険物語を中心に、作品のなかで冒険の要素がどのように描かれ、それが子どもにとってどのような意味を持つのかを探る。また作品のなかの「ごっこ」遊びの冒険が登場人物の対立と協調にどのような役割を果たしているかを考察する。さらに作品に描かれる冒険が英米の歴史や社会をどのように反映しているかを探り、舞台となる土地の文化や風物にも触れることで、作品の背景を学ぶ。						
到達目標	英米の児童文学の冒険物語を学ぶことで、冒険物語の伝統や舞台となる土地と風景に関する関心と知識を養い、子どもにとっての冒険物語の重要性を学ぶことができる。また実際に作品の一部を読むことにより、作品に描かれる子どもの個性や心情を分析する力と、作者のメッセージを読み取る洞察力を養うことができる。						
授業計画	第1回：はじめに：児童文学と冒険物語について 第2回：英米の絵本における冒険1 昔話を中心に 第3回：英米の絵本における冒険2 さまざまな絵本 第4回：幼年文学 『クマのプーさん』の冒険 第5回：冒険物語のルーツ『ロビンソン・クルーソー』と『宝島』、アーサー・ランサムと『ツバメ号とアマゾン号』シリーズとその舞台について 第6回：『ツバメ号とアマゾン号』における「海賊」と「探検家」 第7回：『ヤマネコ号の冒険』における宝探し 第8回：『長い冬休み』における「北極探検」 第9回：『オオバン・クラブ物語』における鳥類保護 第10回：『海へ出るつもりじゃなかった』におけるリアルな冒険 第11回：『六人の探偵たち』における「探偵(真犯人捜し)」 第12回：『女海賊の島』における中国の女海賊 第13回：『シロクマ号となぞの鳥』におけるスコットランドのゲール人 第14回：『クロードアの秘密』における家出という冒険 第15回：『ふしぎの国のアリス』における冒険						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	テキストのなかの指定された章を読んでください。 図書館や文庫、書店などで、児童文学にふれる機会をもってほしい。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	レポート50%、絵本レポートや授業時の最後に提出してもらうミニレポートを含む平常点50%						
履修上の注意	1. 履修の対象者 児童文学に関心をもっている人を対象とします。 2. 履修上の注意 実授業数の三分の一を超えて欠席すると、受講資格を失います。 教員の連絡先または連絡方法：学習上の質問は授業終了後30分間、事前予約の上受け付けます。 テキストを必ず入手して授業に持ってきてください。						
教科書	『ツバメ号とアマゾン号上・下』アーサー・ランサム著 神宮輝夫訳 岩波書店 ISBN978-4-00-114170-2 C8397 ISBN978-4-00-114171-9 C8397						
参考書	『英語圏諸国の児童文学I[改訂版]―物語ジャンルと歴史―』日本イギリス児童文学学会編 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-06320-8						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生活システムII (流通・マーケティング)						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理、マーケティングの基礎的な考え方を学習する						
授業の概要	身の回りにあるモノの中には高品質なモノ、革新的なモノなど、たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。誰もが知っているメーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、具体的なケースを取り上げ、マーケティングの理論と組み合わせながらマーケティングの面白さ・難しさについて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	①日常の変化に対するマーケティングの仕掛けについて興味・関心を高めることができる。 ②生活システムにおけるマーケティングの役割に気が付くことができる。 ③商品開発の裏側を読み解き、自らの考えを述べることができる。 ④具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。 ⑤商品開発の難しさ・面白さを知ることができる。						
授業計画	第1回 マーケティング発想の経営 第2回 マーケティングのパラダイム革新 第3回 消費者行動とマーケティング 第4回 マーケティングの\$PとSTP 第5回 ブランドとは何か 第6回 ブランド・ロイヤルティとコミュニティ 第7回 製品戦略 第8回 価格戦略 第9回 チャネル戦略 第10回 マーケティング・コミュニケーション戦略 第11回 マーケティング・リサーチ 第12回 グローバルブランドのマーケティング戦略（ゲスト・スピーカーを予定） 第13回 サービスのブランド戦略 第14回 都市・地域のブランド戦略 第15回 マーケティングにおける社会性と倫理性						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①流行のものや話題のものを常に把握しておく。（街の変化などにも敏感にキャッチしてください） ②新聞・雑誌必読						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（2回）（20%）、期末試験（60%）によって総合的に判断する。						
履修上の注意	①消費者に指示される商品の特徴とは何か？常に考えておいてください。 ②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ③新聞は必読						
教科書	『よくわかる現代マーケティング』陶山計介・鈴木雄也・後藤ゴズ恵編著、ミネルヴァ書房、ISBN978-4-623-07975-9						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	青年期の臨床心理学						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P32070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	青年期の課題に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	青年期に関連の深いさまざまな課題について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めることを目的とします。 就労や恋愛など青年期に関連の深い課題について、臨床心理学的理論に基づく理解や接近の方法を紹介し、身近な素材や事例を用いて理解を深めます。ワークや発表を通じて応用力を高め、その成果を共有します。心理療法におけるそれらの課題への介入についても学びます。						
到達目標	青年期にかかわる諸課題について理解を深め、臨床心理学的な観点から説明することができる。 授業で得られた理解を、自分自身や日常生活上の諸問題に応用することができる、また、それを言語化し他者と共有することができる。						
授業計画	第1回 あなたは大人？子ども？ ～生涯発達における青年期～ 第2回 反抗期は必要？ ～青年期の親子関係～ 第3回 結婚したい？したくない？ ～青年期の恋愛・結婚(1)～ 第4回 愛情という絆 ～青年期の恋愛・結婚(2)～ 第5回 愛情とその病 ～DV・ストーカーの心理～ 第6回 働くってどういうこと？ ～青年期の就活・就職(1)～ 第7回 楽しく働くには？ ～青年期の就活・就職(2)～ 第8回 働かないという社会参加 ～ニート・ひきこもりの心理(1)～ 第9回 生き方の多様性と社会の受容性 ～ニート・ひきこもりの心理(2)～ 第10回 受容され難い存在と表現 ～青年期の犯罪～ 第11回 うつと自殺 ～青年期の精神疾患(1)～ 第12回 統合失調症 ～青年期の精神疾患(2)～ 第13回 心理療法という関係性 ～青年期の精神疾患(3)～ 第14回 調査実践課題発表 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	1) 授業内で実施したワークのまとめ発表用資料作成 (90分×2回) 2) 調査実践課題とその発表用資料作成 (90分×2回) 3) 授業内で紹介した文献購読とレポート作成 (90分×2回) 4) 「素材カード」作成 (90分×4回) ※ 1) から 3) から1つ以上を選択、4) は任意選択とします。						
授業方法	講義、演習						
評価基準と評価方法	平常点(授業への参加・貢献、授業レポート) 40% 課題(1)授業内ワークのまとめと発表、2)調査実践とまとめの発表、3)レポート作成、4)素材カード) 30% 期末試験 30% ※ 課題については、1) から 3) から1つ以上を選択すること。4) は任意選択とします。						
履修上の注意	授業で学んだことを、日常生活や学外実習での経験と結びつけ理解するように、また、新たな疑問をみつけさらに学びを深められるようにしてください。						
教科書	なし。 毎回資料を配布します。※過去の資料はマナバから取得可能です。						
参考書	授業内で紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生物学入門／くらしと科学I						
担当教員	吉野 健一					科目ナンバ-	251190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	くらしの中の身近なトピックスから生物学を学ぶ						
授業の概要	人間が健康的な暮らしを送るためには生物学や医学の知識は不可欠です。iPS細胞、クローン生物、BSE（牛海綿状脳症）、遺伝子組み換え食品、ワクチン、新型インフルエンザウイルス、性の多様性、乳がん、染色体異常など、報道やテレビ番組でよく見聞きする生物学や医学に関する身近なトピックスを取り上げて科学的に解説します。特に女性として健康で幸福な生活を送るために有用な生物学的・医学的知見を紹介しながら、より良い生活を送るために科学的な知識や客観的な思考力が大切であることを学びます。						
到達目標	人間も生物の一種であり、われわれ人間が健康的な暮らしを送るためには生物学や医学的な知識は不可欠です。女性として健康で幸福な生活を送ることができるための一助となる基礎的な生物学の知識を習得し、その理解を深めることを目標とします。また生物学と医学とは深い関連があり、生物学が人類の福祉に大きく貢献していることを理解し、健康に関する身近な話題を生物学的な視点から客観的に考えることができるようになることを目標とします。						
授業計画	第1回：がんという病気で細胞を理解しよう ①がんとは何か 第2回：がんという病気で細胞を理解しよう ②乳がんの特徴 第3回：感染症という病気からウイルスと細菌を理解しよう 第4回：新しい感染症を理解しよう 第5回：ワクチンから健康を守る免疫を理解しよう 第6回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ①プリオン病とは何か 第7回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ②プリオン病発症のしくみ 第8回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ③プリオン病の歴史 第9回：いろいろな生き物の生殖法を理解しよう 第10回：ヒトの性決定システムを理解しよう 第11回：性決定システムの多様性を理解しよう 第12回：クローンとiPS細胞を理解しよう 第13回：ヒトの初期発生を理解しよう 第14回：遺伝子組み換え技術を理解しよう ①遺伝子を組み換えるとはどういうことか 第15回：遺伝子組み換え技術を理解しよう ②遺伝子組み換え技術の有用性と問題点						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画の内容に関係した報道に日頃から関心をもって接してください。 授業後学習：学んだ内容に関係した報道に関心を持ち続け、理解を深める努力を続けてください。						
授業方法	講義。プロジェクターを使って解説します。						
評価基準と評価方法	講義ごとに行う小テスト（ノート形式）と受講態度75% 期末レポート25%。 単位の取得には10回以上の出席と期末レポートの提出が必須。 小テストが0点の場合は欠席扱いとします。						
履修上の注意	(1) 履修条件 生物学や医学、健康に興味をもち、積極的に授業に参加する学生を対象とします。 (2) その他 私語や飲食、講義中のスマートフォンや携帯電話の操作、化粧など、他の受講生の聴講を妨げたり、不適切な行為は厳禁。 講義中の迷惑行為、不適切な行為、学生便覧に記載された受講マナーや校内ルール（講義室におけるスマートフォンの充電等）に対する違反が認められた場合は小テストを無効・欠席扱いとします。 13:40以降の入室および14:10以前の退室は欠席扱いとします。 また座席位置に関しては教員の指示に従ってください。 小テストにおいて、代筆やスマートフォンの操作などの不正行為や類似答案、期末レポートにおいて他の文献からのコピー＆ペーストが認められた場合は単位を認定しません。						
教科書	なし。ノート形式の小テスト答案用紙を毎回2部配布します。						
参考書	『これだけはおさえない生命科学 身近な話題から学ぶ』武村政春・他著、実教出版 ISBN978-4-407-32166-1 『生物学の基礎知識』都河明子著、丸善 ISBN978-4-621-07976-8 『初歩からの生物学』鈴木範男著、三共出版 ISBN978-4-7827-0554-4 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞「境界を生きる取材班」著、毎日新聞 ISBN978-4-620-321783						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の歴史						
担当教員	尾崎 秀夫					科目ナンバ-	Z51080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパ近現代史の概説。						
授業の概要	ヨーロッパの近代史、19世紀以降の歴史を概観する。またできる限り時事問題との関連にもふれながら授業を進めていきたい。現代の世界は言うまでもなく歴史を経過して生まれたものである。現代を考えるには、歴史をふまえていなければならないのは当然である。受講生に近代史の基本的知識を身につけてもらうとともに、現代について関心を持たせることを目的とする。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。						
到達目標	20世紀の歴史を学習することによって現代世界の諸問題の歴史的背景を理解することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絶対主義</li> <li>2. 市民革命（イギリス革命、アメリカ独立革命）</li> <li>3. 市民革命（フランス革命）</li> <li>4. ウィーン体制</li> <li>5. 諸国民の春</li> <li>6. イタリアとドイツの統一</li> <li>7. 帝国主義</li> <li>8. 第1次世界大戦とロシア革命</li> <li>9. ヴェルサイユ体制</li> <li>10. 世界恐慌とナチスの台頭</li> <li>10. 第2次世界大戦</li> <li>11. 冷戦</li> <li>13. ベトナムとアフガニスタン</li> <li>14. 冷戦の終結と現代世界</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	高校の時の世界史の教科書を見直すとともに、日々のニュースに関心を持つこと。						
授業方法	講義形式。適宜、時事問題に関するプリントを用いて解説を加える。						
評価基準と評価方法	平常点（平常点、平常試験）で評価する。平常点30%、平常試験70%。						
履修上の注意	大学生としての良識に従って受講すること。とくに私語は慎むこと。10回以上出席していないと受験資格を認めない。遅刻2回で欠席1回扱いとする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の歴史						
担当教員	尾崎 秀夫					科目ナンバ-	Z51080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパ近現代史の概説。						
授業の概要	ヨーロッパの近代史、19世紀以降の歴史を概観する。またできる限り時事問題との関連にもふれながら授業を進めていきたい。現代の世界は言うまでもなく歴史を経過して生まれたものである。現代を考えるには、歴史をふまえていなければならないのは当然である。受講生に近代史の基本的知識を身につけてもらうとともに、現代について関心を持たせることを目的とする。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。						
到達目標	20世紀の歴史を学習することによって現代世界の諸問題の背景を理解できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絶対主義</li> <li>2. 市民革命（1）</li> <li>3. 市民革命（2）</li> <li>4. ウィーン体制</li> <li>5. 諸国民の春</li> <li>6. イタリアとドイツの統一</li> <li>7. 帝国主義</li> <li>8. 第1次世界大戦とロシア革命</li> <li>9. ヴェルサイユ体制</li> <li>10. 世界恐慌とナチスの台頭</li> <li>10. 第2次世界大戦</li> <li>11. 冷戦</li> <li>13. ベトナムとアフガニスタン</li> <li>14. 冷戦の終結と現代世界</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	高校の時の世界史の教科書を見直すとともに、日々のニュースに関心を持つこと。						
授業方法	講義形式。適宜、時事問題に関するプリントを用いて解説を加える。						
評価基準と評価方法	平常点（平常点、平常試験）で評価する。平常点30%、平常試験70%。						
履修上の注意	大学生としての良識に従って受講すること。とくに私語は慎むこと。10回以上出席していないと受験資格を認めない。遅刻2回で欠席1回扱いとする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	生理心理学						
担当教員	中尾 美月					科目ナンバ-	P12060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ココロとカラダの関係を科学する。						
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がドキドキしたり、胃が痛くなったりすることは、心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体どこにも存在しないのだろうか。この授業では、心と身体の関係について、古典的ともいえる知見から、最新の脳科学研究の成果に至るまで、数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに、心のありかについて自らの考えをまとめることで、人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。						
到達目標	心と身体の関係について基礎的な知識が習得できる。 心と身体の関係がわかる現象や具体例を挙げ、それを生理心理学的に説明することができる。						
授業計画	第1講 生理心理学とは 第2講 脳 ～あなたは右脳タイプ？左脳タイプ？～ 第3講 視覚 ～なぜものが見えるのか～ 第4講 顔認識 ～なぜアヒル口が流行ったのか～ 第5講 知覚の統合 ～青い食べ物でダイエット？～ 第6講 記憶1 ～記憶の亡霊～ 第7講 記憶2 ～マインドマップを描こう～ 第8講 知能 ～脳トレで頭が良くなる？～ 第9講 発達 ～赤ちゃんはワンダーランド～ 第10講 感情 ～泣くから悲しい？～ 第11講 恋愛 ～愛は麻薬？それとも絆？～ 第12講 ストレス ～癒しの脳科学～ 第13講 人間らしさ ～脳の中のもうひとりの私～ 第14講 ココロとカラダ ～心はどこにある？～ 第15講 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので、文献やインターネットを使って調べておく。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で配布したプリントを再読したり、紹介した参考文献を読んだりして学びを深める。授業で学んだ内容を日常生活の中で確認する。（学習時間：120分）						
授業方法	講義形式で行う。基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。						
評価基準と評価方法	平常点30%、試験70% 平常点は毎回配付する感想カードで確認する。 感想カードに書かれたコメントや質問については、その一部を翌週の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	1. 基本的に、授業を聞きたい者にとって、邪魔になる行為を禁止する。 私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 2. 欠席時のプリントは再配布するが、空欄部分については各自で埋めること。						
教科書	テキストは使用しない。毎週プリントを配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	世界の文学						
担当教員	武田 良材					科目ナンバ-	Z51030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	文学入門						
授業の概要	よく引き合いに出される古典的文学作品を紹介し、それらの作品がいかなる意味で今なお注目に値するかを解説します。科目としての「国語」と「文学」の違い、あるいは文学についてどう語ればよいかを理解してもらいます。古典的文学作品の多くはあまり読まれてはいないので、作品を知るだけでも教養になります。なお、日本における現代的な教養という観点から、アジアやアフリカなどを含めた全世界の文学を扱うのではなくて、欧米の古典的名作を一つのテーマに沿って紹介します。						
到達目標	授業で取り上げた作品が古典とみなされる理由を説明できる。						
授業計画	<p>「家政」をテーマに世界の名作文学を紹介する。話の都合上、出版年はかなり前後する。</p> <p>第1回 授業の進め方、文学の解釈  第2回 一人だけの暮らし：デフォー『ロビンソン・クルーソー』（1719）  第3回 一家族だけの暮らし：ウィース『スイスのロビンソン』（1812）  第4回 学友たちだけの暮らし：ヴェルヌ『二年間の休暇』（1888）  第5回 有閑マダムの変遷：フローベール『ボヴァリー夫人』（1856）  第6回 つつましい生活：オルコット『若草物語』（1868）  第7回 これまでの振り返り。男の家政から女の家政へ。  第8回 文明と距離を置く：ソロー『ウォールデン』（1854）  第9回 大自然と大都会：シュペーリ『アルプスの少女ハイジ』（1881）  第10回 開拓者の森の生活：ワイルダー『大きな森の小さな家』（1932）  第11回 開拓者の草原の生活：ワイルダー『大草原の小さな家』（1935）  第12回 丁寧な生活：モンゴメリ『赤毛のアン』（1908）  第13回 社会主義：チェルヌイシェフスキー『何をなすべきか』（1863）  第14回 全体主義：オーウェル『動物農場』（1945）  第15回 主夫：ファラダ『ピネベルク、明日はどうする!?!』（1932）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業でとりあげる作品を読んで、授業のときの印象と比較考察しましょう。それを感想文として提出すれば平常点に加点します。						
授業方法	講義。講義内容から考えさせられたことをほぼ毎回書いて提出する。						
評価基準と評価方法	ほぼ毎回書く感想文で評価する。授業から何かを学び得たかどうかを基準に評価する。補うために読書感想文を提出してもよい。受講者が多数いる場合には試験を実施する。						
履修上の注意	考えながら聴き、意見を書きましょう。私語厳禁。						
教科書	文学作品の抜粋を配布する。						
参考書	武田良材 著『しがいないサラリーマンの1930-32年』 郁文堂、ISBN978-4261073355 ヘンリー・ヒッチングズ 著『世界文学を読めば何が変わる?』 みすず書房、ISBN978-4622075653 ピエール・バイヤール 著『読んでいない本について堂々と語る方法』 筑摩書房、ISBN978-4480837165 トーマス・C・フォスター 著『大学教授のように小説を読む方法』 白水社、ISBN978-4560080399						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	地球環境と人間						
担当教員	坂元 仁					科目ナンバ-	251200
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	地球史、生命史、人類史を辿り、自然観および環境問題について考える。						
授業の概要	人類は太古から野生の動植物の品種改良や森林伐採などで自然そのものを作り変えてきた。産業革命を経て人類は人口増加の一途を辿り、現在も環境問題をはじめ、食糧問題、感染症、エネルギー資源の枯渇などの脅威を抱えている。幅広い教養の一環として地球環境と人間の相互関係の歴史を踏まえ、その成功例・失敗例から学ぶ。						
到達目標	生命の歴史、人類の歴史、科学技術史を辿って地球環境と人間の関係の変遷を様々な切り口で学び知り、深い人間理解につなげる。“自然の中に人間がいる”という自然観・人間観に立ち返り、現代社会が抱える諸問題・危機に対して広い視点から俯瞰して、プラス面・マイナス面を分析でき、自分の意見を論理的に記述できる。						
授業計画	第1回 講義のガイダンスとノートの取り方について 第2回 生命の誕生と地球環境－地球の誕生、最初の生命とは、シアノバクテリアと酸素 第3回 生命進化の大爆発－細胞、遺伝子、真核生物の誕生、カンブリア期の進化爆発 第4回 地球環境と大量絶滅の謎－5回繰り返された大量絶滅、人類による第6の絶滅 第5回 人類の誕生と進化－ホモ・サピエンスとネアンデルタール人、道具・言語・意識の芽生えの謎 第6回 農耕と家畜化－農耕はなぜはじまったのか、初期の栽培植物と家畜について 第7回 道具：鉄器から産業革命を経て－古代の物語のなかの環境破壊、自然科学の発達 第8回 医学の発達－医学の歴史、なぜ病気は起こるのか？ 第9回 地球環境と人口・食糧問題－世界人口と高齢化社会、生態系から考える 第10回 地球温暖化－人類活動要因説と自然環境要因説 第11回 地球資源の枯渇とエネルギー問題－再生可能エネルギーと次世代資源の探索 第12回 環境汚染と環境破壊－公害（水俣病と原発事故） 第13回 水資源と自然環境浄化への取り組み－美味しい水、水辺の生態系を育む 第14回 地球規模化する感染症－感染症の歴史、インフルエンザ、多剤耐性菌の出現 第15回 地球環境と人類の未来－エコロジー、持続可能な社会に向けて						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義を通してノートを取る能力（キーワードをメモする、要約する）、自分でもさらに調べてみる能力を養っていくこと（学習時間：30分）。普段のニュース（新聞、テレビ、インターネット、書籍）から環境問題に注意を向け、好奇心を持って調べ、批評的に考えてみる（学習時間：30分）。						
授業方法	各回のテーマについて映像資料を利用しながら講義を行い、生命、進化、地球環境と人間の繋がりについて理解を深める。小レポートを通して自分の意見を記述できる力、図解的にまとめる力を身に付けていく。						
評価基準と評価方法	課題レポート40%（選択した課題に対して背景説明、問題提起、その問題への対策案に関する論理的記述を評価する） 平常点60%（受講態度30%、小テスト30% 授業毎にリアクションペーパー（小レポート）を課し、評価する）						
履修上の注意	私語厳禁。						
教科書	講義時の配布資料をテキストとする。						
参考書	クリストファー・ロイド（著）「137億年の物語 宇宙が始まってから今日までの全歴史」（文藝春秋） 西本昌司（著）「地球のはじまりからダイジェスト 地球のしくみと生命進化の46億年」（合同出版株式会社） ジャレド・ダイヤモンド（著）「銃・病原菌・鉄——1万3000年にわたる人類史の謎（上・下）」（草思社、2000年）その他、適時指示。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	東西芸術の文化史／比較文化IB						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバ-	A32020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	異質な文化が出会うとき。						
授業の概要	「芸術」という概念はキリスト教西欧で生まれ、西欧主導で発展したと言える。「西」から見て異質なものは「東」と呼ばれ、その異質なもの同士が出会うとき、新たな文化的展開の可能性が生まれる。「西」はどのようにオリент、東方、東洋と対峙し、日本のわたしたちはどのように西洋を受け止め、向き合ってきたのかを、幾つかの歴史的場面を取り上げ、検証する。						
到達目標	わたしたちのものの見方が自分たちが生まれ育った文化・伝統によって裏打ちされていること、異なる文化・伝統との出会いがわたしたちのものの見方を変化させてきたこと、そしてそのような出会いが今後の新たな文化的展開へつながりうることに気づくことができる。						
授業計画	第1回 導入（授業ガイダンス） 第2回 「東」と「西」 第3回 ギリシャ的世界観とローマ的世界観 第4回 キリスト教世界における東方と西方 第5回 可視と不可視 第6回 まだ見ぬ東方世界へ 第7回 日本と南蛮 第8回 旅と景色ーピクチャレスクー 第9回 ロマン主義ーエキゾチックなものへー 第10回 他者と出会う 第11回 シノワズリー・ジャポニズム 第12回 プリミティヴィズムー間文化的な問いー 第13回 西洋美術を纏うー東洋のわたしー 第14回 映画の中の異文化 第15回 まとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみることを。また授業で興味を持った事柄・作品についてさらに掘り下げて調べてみることを。授業内で取り上げるテーマについての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。						
履修上の注意	私語、携帯やメールの使用、授業中の出入りは慎むこと。教室では固定席（学生番号順）とする。 希望があれば費用各自負担・自由参加で学外見学することもあり。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もあり。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の歴史						
担当教員	李 芝映					科目ナンバ-	Z51070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	古代から現代にいたる日本歴史の概説						
授業の概要	この授業では、古代から現代まで、日本の歴史を学びます。各時代の社会・政治システムがいかに変わっていったのかを概観します。そのうえ、それぞれの時代の人々の生き方を紹介しながら、多様な観点からその時代を理解します。それを通じて日本の歴史についての理解を深めていきます。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本史に関する知識を習得する。</li> <li>2. 政治・社会・経済構造の歴史的変遷過程を理解する。</li> <li>3. 歴史の理解を通じて現代に対する理解を深める。</li> </ol>						
授業計画	第1回 オリエンテーション：講義の概要と進め方、成績評価の方法 第2回 古代時代：農耕社会の出現と古代国家の成立 第3回 中世時代①：荘園経済 第4回 中世時代②：武家の登場 第5回 戦国時代 第6回 江戸時代①：江戸幕府の成立 第7回 江戸時代②：政治システム 第8回 江戸時代③：経済システム 第9回 江戸時代④：幕藩体制の動揺 第10回 幕末 第11回 明治時代①：近代国家の成立 第12回 明治時代②：経済・社会システム 第13回 大正時代 第14回 昭和時代①：戦争と社会 第15回 昭和時代②：戦後の政治と社会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回の授業で参考資料を紹介します。各自の関心に応じて選んで自習してください。その際には、期末レポートのテーマを念頭に置きながら、学習してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	不定期の小テスト(30%)、期末レポート(70%)						
履修上の注意	この授業は古代から現代までの日本歴史の概説が中心です。各時代の変遷過程を中心として講義します。						
教科書	特にありません。各回の授業で資料を配布します。						
参考書	特に指定している参考書はありません。各回の授業で内容に応じて参考文献を紹介します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の文学						
担当教員	東野 泰子					科目ナンバ-	Z51020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の古典文学作品を読むことを通して、現代に通じている日本の文化の独自性を考察する。						
授業の概要	古典を学ぶということは、廃れてしまった過去の文化遺産を知識として得ようとするのではない。現代日本の生活のなかに、古典に由来する習慣や感性があたりまえのように存在している。また、新たに生み出されるさまざまな日本の文化には、古典的な文化を発想の源としているものが少なからずある。現代日本の生活や文化の中に、古典的なものを再発見し、それが現代まで生き残ってきたのはなぜかを考える。さらに、他の文化から見た日本的なものとは何かを考えることを目指したい。						
到達目標	日本文学史のおよその流れを説明できる。 自分自身の文化的な生活習慣や感性のなかに、日本の古典文学に由来するものがあることを説明できる。 世界的な視点から見た日本文化の独自性とは何かについて、考えを述べることができる。						
授業計画	第1回：はじめに 現代日本文化と古典文学 第2回：漢字で日本語を表すこと 1－古事記・日本書紀 第3回：漢字で日本語を表すこと 2－万葉集 第4回：仮名の発明－いろは歌と五十音図 第5回：七五のリズム 1－万葉集・古今集・今様 第6回：暦と季節感 1－古今集・新古今集の春夏 第7回：暦と季節感 2－古今集・新古今集の秋冬 第8回：恋の発端 1－伊勢物語 第9回：恋の発端 2－源氏物語 第10回：日記という文化 1－漢文日記・土佐日記 第11回：日記という文化 2－蜻蛉日記・紫式部日記 第12回：記録する意志－枕草子・方丈記 第13回：日本文学史概観Ⅰ 第14回：日本文学史概観Ⅱ 第15回：まとめ－世界の中の日本文学						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の授業内容や自分なりの疑問点をまとめておく。 また、次回までに調べてくること（辞書を引く等）を授業中に指示する。 それを次の授業のはじめに書いて提出してもらう。						
授業方法	講義形式。 毎回、前回の授業のまとめや、ワークシート、小テスト等を課す。						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、まとめ等の提出、小テスト）60% 期末レポート40%						
履修上の注意	古典の文法的知識は必要としない。 2／3以上の出席回数に満たない者は、期末レポートの提出を認めない。 理由のない遅刻、早退、途中退席は出席に数えない。 授業中の携帯電話、スマートフォン、タブレット等は使用不可。電子辞書は使用可。 毎時、前回授業に関する問いに答えて提出してもらい、それを平常点とするので、出席することが重要。						
教科書	教科書は指定しない。 毎時、資料を配付する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本の文学						
担当教員	東野 泰子					科目ナンバ-	Z51020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の古典文学作品を読むことを通して、現代に通じている日本の文化の独自性を考察する。						
授業の概要	古典を学ぶということは、廃れてしまった過去の文化遺産を知識として得ようとするのではない。現代日本の生活のなかに、古典に由来する習慣や感性があたりまえのように存在している。また、新たに生み出されるさまざまな日本の文化には、古典的な文化を発想の源としているものが少なからずある。現代日本の生活や文化の中に、古典的なものを再発見し、それが現代まで生き残ってきたのはなぜかを考える。さらに、他の文化から見た日本的なものとは何かを考えることを目指したい。						
到達目標	日本文学史のおよその流れを説明できる。 自分自身の文化的な生活習慣や感性のなかに、日本の古典文学に由来するものがあることを説明できる。 世界的な視点から見た日本文化の独自性とは何かについて、考えを述べるができる。						
授業計画	第1回：はじめに 現代日本文化と古典文学 第2回：漢字で日本語を表すこと 1－古事記・日本書紀 第3回：漢字で日本語を表すこと 2－万葉集 第4回：仮名の発明－いろは歌と五十音図 第5回：七五のリズム 1－万葉集・古今集・今様 第6回：暦と季節感 1－古今集・新古今集の春夏 第7回：暦と季節感 2－古今集・新古今集の秋冬 第8回：恋の発端 1－伊勢物語 第9回：恋の発端 2－源氏物語 第10回：日記という文化 1－漢文日記・土佐日記 第11回：日記という文化 2－蜻蛉日記・紫式部日記 第12回：記録する意志－枕草子・方丈記 第13回：日本文学史概観Ⅰ 第14回：日本文学史概観Ⅱ 第15回：まとめ－世界の中の日本文学						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の授業内容や自分なりの疑問点をまとめておく。 また、次回までに調べてくること（辞書を引く等）を授業中に指示する。 それを次の授業のはじめに書いて提出してもらう。						
授業方法	講義形式。 毎回、前回の授業のまとめや、ワークシート、小テスト等を課す。						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、まとめ等の提出、小テスト）60% 期末レポート40%						
履修上の注意	古典の文法的知識は必要としない。 2／3以上の出席回数に満たない者は、期末レポートの提出を認めない。 理由のない遅刻、早退、途中退席は出席に数えない。 授業中の携帯電話、スマートフォン、タブレット等は使用不可。電子辞書は使用可。 毎時、前回授業に関する問いに答えて提出してもらい、それを平常点とするので、出席することが重要。						
教科書	教科書は指定しない。 毎時、資料を配付する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文化を学ぶ／日本文化を学ぶB						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72180
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	王朝びとの生活と文化						
授業の概要	平安時代の貴族たちがどのような邸に住み、どのような装束を身にまとい、どのような生活を送っていたのかを考察し、さらに、そこに形成されていった華やかで雅(みやび)な平安時代の文化について明らかにしたい。本授業では、『源氏物語』や『枕草子』、また『紫式部日記』などの王朝日記に現れている王朝人の暮らしや文化について講義する。当時の貴族生活や儀礼・行事について理解しやすいよう、パソコンやDVDの画像をスクリーンに提示したりしながら解説する。						
到達目標	平安貴族の暮らしと文化について理解し、説明できる。 平安貴族の暮らしと文化に関する言葉について理解し、その言葉を表わす漢字を読むことができる。						
授業計画	第1回 王朝人の住まい 第2回 男性の装束 第3回 女性の装束 第4回 装い(化粧・整髪など) 第5回 貴族の食事 第6回 信仰と生活習慣(物忌み、方違え) 第7回 貴族の宮仕え(官位官職) 第8回 通過儀礼(袴着・元服・裳着など) 第9回 恋愛と結婚 第10回 算賀・葬送 第11回 年中行事と節会(七夕・相撲節会など) 第12回 祭礼(賀茂の祭など) 第13回 貴族の教養 第14回 貴族の遊び(音楽・蹴鞠など) 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	興味を持った事柄について、自身でも深め、探究する。 プリントに示した言葉を理解し、その言葉を表わす漢字を読むことができるよう復習する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 小テスト 20% 取り組みの意欲など平常の姿勢 10%						
履修上の注意	毎回、プリントを配布するので、遅刻、欠席をしないこと。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	日本文学と美術工芸／日本文化を学ぶA						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72170
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術工芸における『伊勢物語』 享受の様相を学ぶ						
授業の概要	平安時代の『伊勢物語』は在原業平とおぼしき「男」を主人公にした歌物語である。その男の恋のやり取り、惟喬親王や友人との親愛の情などが百二十五章段に描かれている。本授業では、『伊勢物語』の本文を紹介しながら、それを描いた絵巻・絵本や、『伊勢物語』をもとにして制作された美術工芸品について講義する。『伊勢物語』がどのように捉えられ、どのように享受されてきたかを考察したい。						
到達目標	『伊勢物語』の絵巻・絵本の特徴を理解し、説明することができる。 『伊勢物語』を享受した美術工芸品の特徴を理解し、説明することができる。						
授業計画	第1回 『伊勢物語』とその影響を受けた美術工芸品 第2回 『白描本伊勢物語絵巻』 第3回 『久保惣本伊勢物語絵巻』 第4回 『異本伊勢物語絵巻』 第5回 『小野家本伊勢物語絵巻』と『チェスタービーティー本伊勢物語絵本』 第6回 『スペンサー文庫本伊勢物語絵巻』 第7回 『中尾家本伊勢物語絵本』 第8回 『嵯峨本伊勢物語』 第9回 『伊勢物語』の屏風 第10回 『甲子園学院本伊勢物語』と『伊勢物語』のかかるた 第11回 『伊勢物語図色紙』ほか、俵屋宗達作品 第12回 『燕子花図屏風』『八橋図屏風』ほか、尾形光琳の屏風 第13回 尾形光琳の『八橋蒔絵螺鈿硯箱』ほか、蒔絵作品 第14回 住吉如慶筆『伊勢物語絵巻』 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	古典文学と関わりのある美術工芸品に興味を持ち、それらが扱われた本やテレビ番組を見たり、展覧会に出かけたりする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 小テスト 20% 取り組みの意欲など平常の姿勢 10%						
履修上の注意	遅刻、欠席をしないこと。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	『新校注伊勢物語』片桐洋一・田中まき著（和泉書院）						
参考書	『伊勢物語 慶長十三年刊嵯峨本第一種』片桐洋一編（和泉書院） 『伊勢物語全読解』片桐洋一（和泉書院） 『伊勢物語絵巻・絵本大成』（角川学芸出版） 『宗達伊勢物語図色紙』（思文閣出版）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	人間関係論						
担当教員	藤田 弥世					科目ナンバ-	Z51120
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学から考える人間関係						
授業の概要	人は家族や恋人、友人など様々な人と関係を持ち、日々コミュニケーションを行っている。そのような人間関係を結んだり、維持したりしていく背景には様々な「こころ」の働きが関わっている。本講義では社会心理学的な視点から、人と人とのコミュニケーションがどのような「こころ」の仕組みに支えられているのかについて解説する。						
到達目標	①人間関係にまつわる社会心理学的な知見を説明できるようになる。 ②自分の身の回りの人間関係を、社会心理学的な視点から考えることができるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：人間関係をどのように研究するか 第2回 自己呈示・自己開示 第3回 親密な人間関係（恋愛） 第4回 対人魅力（友人関係） 第5回 協力行動 第6回 信頼 第7回 他者理解①：他者との感情の共有 第8回 他者理解②：マインドリーディング 第9回 他者への思いやり 第10回 ソーシャル・ネットワーク①：社会的排斥 第11回 ソーシャル・ネットワーク②：ソーシャル・サポート 第12回 集団意思決定 第13回 リーダーシップ 第14回 マスメディア・インターネット 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：指定の参考書を読み、授業の内容にあらかじめふれておくことが望ましい。 授業後：授業資料や指定の参考書を読み返して内容を復習し、それが普段の日常生活とどのように関わっているか考えることが望ましい。						
授業方法	講義を中心に、時に心理学調査を体験して頂きます。また、試験日を除いて毎回の授業後には、ごく簡単なミニレポートを提出して頂きます。						
評価基準と評価方法	ミニレポート45%・試験55%とします。						
履修上の注意	授業に関する質問は随時受け付けます。授業中・授業前後に直接質問する、ミニレポートで質問する、連絡先にメールを送る、等のどの方法で行って頂いても構いません。						
教科書	授業資料を配布します。						
参考書	1. 池田 謙一・唐沢 穰・工藤 恵理子・村本 由紀子（著）「社会心理学 (New Liberal Arts Selection)」有斐閣 ISBN 978-4-641-05375-5 2. 亀田 達也・村田 光二（著）「複雑さに挑む社会心理学—適応エージェントとしての人間— 改訂版」有斐閣アルマ ISBN 978-4-641-12418-9 3. 北村 英哉・大坪 庸介（著）「進化と感情から解き明かす社会心理学」有斐閣アルマ ISBN 978-4-641-12466-0 4. 北村 英哉・内田 由紀子（編）「社会心理学概論」ナカニシヤ出版 ISBN 978-4-7795-1059-5 他の参考書に関しては授業中に紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	認知心理学						
担当教員	中尾 美月					科目ナンバ-	P12070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人の認知の特徴やしぐみについて理解する。						
授業の概要	認知とは「知る」ことである。 人は「こころ」を通して、外界を、他者を、そして自分自身を認知している。 この授業では、認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって、「こころ」の不思議さを実感し、 人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。						
到達目標	人の認知がいかに主観的なものであり、 対象をありのままに捉えていないということを体験的に理解できるようになる。						
授業計画	第1講 認知心理学とは 第2講 知覚1 ～知覚の不思議～ 第3講 知覚2 ～色の不思議～ 第4講 知覚3 ～三次元の世界～ 第5講 記憶1 ～自由再生の実験からわかること～ 第6講 記憶2 ～感覚記憶と短期記憶～ 第7講 記憶3 ～長期記憶～ 第8講 問題解決 ～サバイバルゲーム～ 第9講 心の健康と認知1 ～ストレスと認知～ 第10講 心の健康と認知2 ～うつと認知～ 第11講 心の健康と認知3 ～認知療法～ 第12講 社会的認知1 ～アサーション～ 第13講 社会的認知2 ～他者認知～ 第14講 まとめと試験 第15講 試験解説						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので、文献やインターネットを使って調べておく。 （学習時間：60分） 授業後学習：授業で配布したプリントを再読したり、紹介した参考文献を読んだりして学びを深める。授業で学んだ内容を日常生活の中で確認する。（学習時間：120分）						
授業方法	講義形式で行うが、適宜、体験学習を取り入れる。 基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。						
評価基準と評価方法	平常点30%、試験70% 平常点は毎回配付する感想カードで確認する。 感想カードに書かれたコメントや質問については、その一部を翌週の授業で紹介・解説する。 試験結果の講評は15講で行う。						
履修上の注意	1. 基本的に、授業を聞きたい者にとって、邪魔になる行為を禁止する。 私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 2. 欠席時のプリントは再配布するが、空欄部分については各自で埋めること。						
教科書	テキストは使用しない。毎週プリントを配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	阪神デザイン論						
担当教員	徳山 孝子					科目ナンバ-	F72010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	郊外住宅地の形成、阪神間の建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などあらゆる角度から「阪神間モダニズム」をとらえる。						
授業の概要	江戸時代に商都として栄えた大阪、明治以降に西洋文化の玄関口となった神戸に挟まれた阪神間は歴史的にも特有の文化が形成された地域であり、「具体」に見られるように近代美術の歴史にも深い影響を与えている。こうした阪神地域から輩出したファッション、ハウジング領域を中心とするデザイナー達の活躍を紹介し、地域に固有な文化的・経済的背景を基礎とするデザインの特質を理解することで、地域に根差した生活文化・ライフスタイルを形成するデザインの可能性を探る。						
到達目標	1) 大阪から神戸の特徴を地図に描くことができる。 2) 阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、述べることができる。 3) 神戸のファッション文化を説明することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）</li> <li>2. 阪神間とは</li> <li>3. 阪神間を築いた交通と郊外住宅地</li> <li>4. 阪神および神戸のライフスタイル</li> <li>5. 阪神間に生きた建築家とその作品</li> <li>6. 阪神間の食文化</li> <li>7. 雑誌「ファッション」から阪神間ファッションの紹介</li> <li>8. 阪神間のファッションデザイナーやグラフィックデザイナーたち</li> <li>9. 阪神間の芸術家たち（美術家、音楽家、写真家）</li> <li>10. 神戸の環境とは</li> <li>11. ホテル文化のさきがけ</li> <li>12. 神戸の飲料水</li> <li>13. 神戸のファッション</li> <li>14. 神戸と化粧品</li> <li>15. 宝塚歌劇と神戸・阪神間の関係性について</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業内で説明する。（学習時間60分） 授業後学習：学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。（学習時間60分）						
授業方法	①各回設定のテーマでレジュメを配布する。レジュメに沿って講義するため、授業前準備学習と授業後学習に使用する。 ②資料はプリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	レポート70%：阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、授業で学習した方法で研究しまとめる。到達目標（1）～（3）に関する到達度の確認。 課題30%：阪神間の地図を描く課題とレジュメを評価する。レジュメは、授業内容の確認と授業後学習を評価する。到達目標（1）～（3）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	①10回以上の出席がないと、受講資格を失う。 ②遅刻は、欠席扱いとする。 ③指定する課題は締切までに必ず提出する。						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントを配布する。						
参考書	毎日新聞社編『阪神観』（東方出版）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	被服整理学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の洗浄と管理について学ぶ。						
授業の概要	日常の被服の手入れや季節ごとの保管から最終的な廃棄にまでを取り扱う。特に、被服整理の中心となる洗濯について科学的な視点から解説し、さらに柔軟剤やアイロンによる仕上げや虫害による損傷を防ぐための適切な保管方法についても解説する。到達目標は、被服の洗浄理論を説明することができること、素材に応じた適切な管理方法を選択することができること、洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができることである。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服の洗浄理論を説明することができる。</li> <li>・素材に応じた適切な管理方法を選択することができる。</li> <li>・洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考えることができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回：衣服の汚れ 第2回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗濯用水 第3回：洗濯用水と衣料用洗剤～洗剤 第4回：洗剤の成分と洗浄作用～界面活性剤水溶液の性質 第5回：洗剤の成分と洗浄作用～陰イオン、非イオン界面活性剤 第6回：まとめと中間試験 第7回：洗剤の成分と洗浄作用～陽イオン、両性イオン界面活性剤 第8回：洗剤の成分と洗浄作用～配合剤の種類と洗浄作用 第9回：洗濯機、家庭洗濯 第10回：洗浄力の試験法と評価 第11回：機械作用の試験法と評価 第12回：漂白剤と増白、しみ抜き 第13回：衣服の保管、商業洗濯 第14回：取扱い絵表示、衣服の廃棄とリサイクル、期末試験 第15回 試験の復習と最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所の予習（30分） 授業後学習：授業内容の整理、課題、まとめプリント（90分）						
授業方法	講義、DVD						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、課題）40%、試験60% 試験は中間と期末の2回おこなう。						
履修上の注意	授業中の小課題は、必ず授業中に提出すること。						
教科書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						
参考書	『洗剤と洗浄の科学』 中西茂子著 コロナ社 978-4339076837						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田 美和子					科目ナンバ-	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。						
授業の概要	被服の材料である綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維との関わりについて考察する。到達目標は、被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができること、繊維素材と着用目的を関連づけ、着用目的に合った繊維素材を選択することができることである。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができる。</li> <li>・自分の被服の繊維素材を調べ、着用目的に照らし合わせて問題点を列挙することができる。</li> <li>・着用目的に合った繊維素材を選択することができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回：被服の材料、繊維について 第2回：天然繊維 植物繊維～綿① 第3回：天然繊維 植物繊維～綿② 第4回：天然繊維 植物繊維～麻 第5回：天然繊維 動物繊維～羊毛 第6回：天然繊維 動物繊維～絹 第7回：まとめと中間試験 第8回：化学繊維 再生繊維 第9回：化学繊維 半合成繊維 第10回：化学繊維 合成繊維～ナイロン 第11回：化学繊維 合成繊維～ポリエステル 第12回：化学繊維 合成繊維～ビニロン、生分解性繊維、他 第13回：無機繊維～ガラス・炭素・金属繊維、高機能繊維 他 第14回：まとめと期末試験 第15回：試験の復習、最終課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書の当該箇所の予習（90分） 授業後学習：授業内容の整理、課題、まとめプリント（90分）						
授業方法	講義、DVD						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、ワークシート記入状況）：40%、試験：60% 試験は中間と期末の2回おこなう。						
履修上の注意	授業中の小課題は、必ず授業中に提出すること。						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学—概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476 『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	フランス文学II						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	フランス心理小説の研究						
授業の概要	スタンダールの『赤と黒』の第1部を翻訳で読みながら、登場人物の心理を分析する。						
到達目標	フランス文学における心理小説について説明することができる。						
授業計画	第1回 スタンダールの『赤と黒』について 第2回 レナール夫人との出会い 第3回 美青年ジュリアン・ソレル 第4回 小間使いのエリザ、結婚を望む。 第5回 ジュリアンの野心 第6回 夜半の会話 第7回 「彼女の手を取らねば」 第8回 「出て行ってください」 第9回 王のヴェリエール訪問 第10回 軽騎兵ジュリアン 第11回 街の噂 第12回 密告の手紙 第13回 真実の愛 第14回 今生の別れ 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	『赤と黒』第2部も読了することが望ましい。						
授業方法	テキストの読解と内容に関する質疑応答						
評価基準と評価方法	平常点（44%）＋筆記試験（56%）。						
履修上の注意	出席重視。1/3以上欠席の者は失格とする。						

教科書	スタンダール作『赤と黒』（上）、岩波文庫、ISBN4-00-325263-2 『赤と黒』の翻訳は複数の文庫から出ているので、購入の際、「岩波文庫」であることを確認すること。
参考書	

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	文化人類学						
担当教員	松岡 靖					科目ナンバ-	752310
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	文化人類学を教養として学ぶことで、自分たちの文化を相対化しよう。						
授業の概要	本講義では、文化人類学における古典的な民族誌を紹介しながら、非西洋社会の親族構造、婚姻体系、集団形成、男女の性役割などについて学んでいく。異文化の他者について学ぶことは、異文化理解に役立つだけでなく、自文化の中で「あたりまえ」と思い込んでいる諸概念を他者の視点からとらえる客観性を養うことでもある。特に授業では、西洋中心主義的な思考に傾倒しがちな私たち自身を批判的に考察していく。これによって「西洋的思考／非西洋的思考」という単純な二項対立図式に陥ることのない思考を身につけていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化人類学の学説史と民族誌の初歩的知識を修得すること。</li> <li>2. 近代的な西欧中心主義の特徴と限界について理解すること。</li> <li>3. 異文化に接しながら自文化の特徴を認識し相対化すること。</li> </ol>						
授業計画	第1回 ガイダンス：文化人類学のイメージは？ 第2回 自文化中心主義と文化相対主義の違いは？ 第3回 親族構造の変容と進化主義のつながり 第4回 民族誌の古典に挑戦 (1) 『男性と女性』 第5回 民族誌の古典に挑戦 (2) 『タテ社会の人間関係』 第6回 民族誌の古典に挑戦 (3) 『想像の共同体』 第7回 近代的な西洋中心主義をどう相対化するか？ 第8回 映像にみる日本の多様性 (1)：在日コリアン 第9回 映像にみる日本の多様性 (2)：アイヌ民族 第10回 映像にみる日本の多様性 (2)：琉球・沖縄 第11回 性役割分業の相対化：セックスとジェンダー 第12回 性的少数者の可視化：性自認と性的志向 第13回 グローバル化にふさわしい移民政策とは？ 第14回 文化人類学の実践：グループ発表と相互評価 第15回 まとめ：レポート返却と成績説明						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 参加者が自分の物語をテキストにしてください。</li> <li>2. 最後のレポートに楽しんで取り組んでください。</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前半は教員による教科書の解説を中心に進めます。</li> <li>2. 途中でさまざまな視聴覚教材について議論します。</li> <li>3. 後半は複数のアクティブ・ラーニングを行います。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点40点（毎回のコメントカード、レポート発表など）</li> <li>2. レポート60点（現代日本の文化事象を批判的に分析する）</li> </ol>						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業が理解できなければ積極的に質問すること。</li> <li>2. 私語などで受講者に迷惑をかけるのは厳禁です。</li> <li>3. 原則として欠席が5回を超えると不可にします。</li> </ol>						
教科書	とくに指定せず、必要な資料を配付します。						
参考書	とくに指定せず、必要な資料を配付します。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 幸					科目ナンバ-	Z51140
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 歴史とボランティア 3. 阪神淡路大震災とボランティア 4. まちづくりとボランティア 5. 障害者福祉とボランティア 6. NPOとボランティア 7. 介護保険とボランティア 8. 認知症ケアとボランティア 9. 在宅所とボランティア 10. 高齢者とボランティア 11. パーソンセンタードケアとボランティア 12. ノーマライゼーションとボランティア 13. マネジメントとボランティア 14. 国際社会とボランティア 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	参考書、関連文献による予習・復習						
授業方法	講義形式による						
評価基準と評価方法	講義ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による						
履修上の注意	講義への積極的な参加を期待する						
教科書	講義中に指示						
参考書	「恋するようにボランティアを〔優しき挑戦者たち〕」 (大能由紀子・2008年・ぶどう社) 「明日の福祉に希望の光を—オリンピアのノーマライゼーション」 (山口 幸・2013年・聖公会出版)						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰					科目ナンバ-	Z51140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 歴史とボランティア 3. 阪神淡路大震災とボランティア 4. まちづくりとボランティア 5. 障害者福祉とボランティア 6. NPOとボランティア 7. 介護保険とボランティア 8. 認知症ケアとボランティア 9. 在宅所とボランティア 10. 高齢者とボランティア 11. パーソンセンタードケアとボランティア 12. ノーマライゼーションとボランティア 13. マネジメントとボランティア 14. 国際社会とボランティア 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	参考書、関連文献による予習・復習						
授業方法	講義形式による						
評価基準と評価方法	講義ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による						
履修上の注意	講義への積極的な参加を期待する						
教科書	講義中に指示						
参考書	「恋するようにボランティアを〔優しき挑戦者たち〕」 （大能由紀子・2008年・ぶどう社） 「明日の福祉に希望の光を—オリンピックのノーマライゼーション」 （山口 宰・2013年・聖公会出版）						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	ヨーロッパ史						
担当教員	尾崎 秀夫					科目ナンバ-	252300
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ローマ皇帝とキリスト教						
授業の概要	ローマ皇帝の対キリスト教政策を検討する。通説ではローマ皇帝はネロからディオクレティアヌスに至るまでキリスト教徒を厳しく迫害したとされる。しかし、近年の研究では、迫害を命じた皇帝はごく少数であり、皇帝による迫害が行われた期間も非常に短かったことが明らかとなっている。では、彼らはいかなるキリスト教政策を採ったのか。ローマ帝国におけるキリスト教迫害とはいかなるものであったのか。ローマ帝国においてキリスト教徒はどのような状況に置かれていたのか。本講義においてはこのような問題を検討する。						
到達目標	ローマ皇帝の対キリスト教政策、ローマ帝国におけるキリスト教徒の状況を知るとともに、通説を検討・批判して新たな歴史像を描いていくという歴史学の営みを理解する。						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 ローマの歴史（イタリア半島統一まで） 第3回 ローマの歴史（帝国の成立まで） 第4回 ユダヤ人の歴史（イエスの誕生まで） 第5回 ネロの迫害（ネロの生涯と史料） 第6回 ネロの迫害（タキトゥス、スエトニウスを中心に検討） 第7回 ドミティアヌスの迫害 第8回 小プリニウスとトラヤヌスの勅令 第9回 1～2世紀のローマ帝国におけるキリスト教迫害の実態 第10回 軍人皇帝時代 第11回 デキウス帝とウァレリアヌス帝の迫害 第12回 ガリエヌスの平和令 第13回 デオクレティアヌス帝の迫害 第14回 コンスタンティヌス帝による公認 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	高校の世界史の教科書を見直しておくこと。講義に出席する前に前回のノートを見直すこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験70%、出席30%						
履修上の注意	原則として、10回以上の出席がないと受験資格を認めない。遅刻2回で1回の欠席扱いとする。						
教科書	とくに定めない。						
参考書	弓削通『ローマ帝国とキリスト教』、1989年、河出書房新社。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	リスクマネジメント論						
担当教員	田邊 文彦					科目ナンバ-	752370
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>「備えあれば憂いなし」「君子危うきに近づくず」これらの格言は、リスク（人間の生命・財産を危険にさらす可能性）に対する対処方法を人々に自覚させる。</p> <p>実際、我々の生活や企業・団体の活動の多くはリスクにさらされている。また、そのリスクの種類は多様化し、発生のメカニズムは複雑化し、その影響は大きくなってきている。</p> <p>一方、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」の諺のように、大きなリターンは大きなリスクをとることによってしか得られない場合もある。</p> <p>このように、リスクを適切に認知、受容、分析、評価することは現代社会に生きる我々にとって非常に重要なこととなっている。</p> <p>この授業では、リスクマネジメントに関する基礎的な知識を学び、受講者が生活の中でのリスクマネジメントを身につけることを目指す。</p>						
授業の概要	<p>まず、1. Basic Term 基礎的用語、概念理解を計る。</p> <p>次に、2. Response First 教員が提唱する「行動第一主義」の重要性の理解を計る。</p> <p>続いて、</p> <p>3. Standard Risk Mgmt Steps 標準的リスクマネジメント手順の理解を計る。</p> <p>4. Case Studies ケーススタディ その手順を事例に当てはめる演習を行う。</p> <p>最後に、仕上げとしてグループワークのワークショップを行い、発表する。</p> <p>5. Workshop ワークショップ</p>						
到達目標	<p>1. Judgement リスクに対する適切な判断ができる。そのための情報収集ができる。</p> <p>2. Response リスクに対する判断に基いて、行動を起こすことができる。</p> <p>3. Communication リスクの判断や意見を他人に伝えることができる。また、他人のリスクの判断や意見を聴取できる。</p>						
授業計画	<p>01 Introduction What is Risk? インTRODダクシヨン（リスクとは？ 履修希望者は出席のこと）</p> <p>02 Worth the Risk? 人生を賭ける価値があるものとは？</p> <p>03 Risk Response 1 Reasons 「行動第一主義」その理由は？</p> <p>04 Risk Response 2 Steps 「行動第一主義」の手順</p> <p>05 Case (1) Car accidents1 事故とリスク1</p> <p>06 Case (2) Car accidents2 事故とリスク2</p> <p>07 Case (3) Date 人間関係（デート）とリスク</p> <p>08 Case (4) Travel 旅行とリスク</p> <p>09 Case (5) Crime 犯罪とリスク</p> <p>10 Workshop1 ワークショップ 分野・テーマ・班分け</p> <p>11 Workshop2 ワークショップ 資料作成</p> <p>12 Workshop3 ワークショップ レポート作成・提出</p> <p>13 Workshop4 ワークショップ レポート発表・評価</p> <p>14 Summary まとめ</p> <p>15 Reporting レポート試験（授業内で最終レポート作成・提出）</p> <p>※1. 試験期間における最終試験は、実施しない</p> <p>※2. 授業スケジュールは変更になる場合がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>スマホによる調べ物と、スマホでの宿題投稿</p> <p>授業の復習→宿題回答のために90分／毎回</p> <p>次回の予習→調べ物のために90分／毎回</p>						
授業方法	<p>講義形式を基本としつつ、演習形式（課題実施）や実習形式（グループワークとグループ発表）の内容を取り入れる。</p>						
評価基準と評価方法	<p>毎回の課題シート提出とHomework宿題投稿が40%、Workshopグループでの実習および発表が40%、Reporting最終レポート作成・提出が20%</p>						
履修上の注意	<p>Homework 宿題はスマホで送信すること。宿題と当日の演習シートの提出が成績に反映。</p> <p>また、後半のWorkshopワークショップ（教室内）に参加・発表しない場合は、原則として単位が取得できない（全授業の1/3のため）</p>						
教科書	<p>Using Handouts</p> <p>授業中にレジュメを配布。毎回ファイリングの事。最終レポート作成時に持ち込み可なので紛失しないこと。</p> <p>なお、最終レポート時間中には配布しない（資料を失くさない工夫もリスクマネジメントの一環）</p>						

参考書	森津太子、星薫、「危機の心理学」放送大学テキスト、2017年3月 本学図書館に有り。ただし、購入を強くお勧めする本。
-----	---

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	臨床心理学A						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P1201A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学とは何か						
授業の概要	本講義では、様々な臨床心理学の基礎理論を学ぶとともに、具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。						
到達目標	臨床心理学という学問の特徴や基本的な概念について説明できる。 代表的な臨床心理学の基礎理論を挙げ、それらについて説明できる。 臨床心理学と自らの生活との関連を見出し、その関連について論述できる。						
授業計画	#01：オリエンテーション－臨床心理学とは何か #02：臨床心理学の基礎理論①：精神分析 #03：臨床心理学の基礎理論②：行動療法 #04：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法 #05：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学 #06：臨床心理学の対象①：神経症・精神病 #07：臨床心理学の対象②：人格障害 #08：臨床心理学の対象③：発達障害 #09：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期 #10：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 #11：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期 #12：臨床心理学的アセスメント #13：臨床心理行為と倫理 #14：まとめ、試験 #15：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「臨床心理学」、#02は「精神分析」、など：学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること（学習時間90分）。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	小レポート（14%）：毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める。提出された小レポートに対して、次回の授業の冒頭で必要に応じてコメントを行う。 期末試験（86%）：到達目標の到達度を評価する。#15に解答例を配布する。						
履修上の注意	毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。						
教科書	なし。						
参考書	授業内で、適時紹介する。						

科目区分	教養系列／一般教養系列						
科目名	臨床心理学B						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	P1201B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。						
授業の概要	臨床心理学が対象とするさまざまな心理学的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的知識の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について学習する。						
到達目標	(1) 各発達段階の心理学的特徴について説明することができる。 (2) 各発達段階に生じやすい心理学的問題について具体的に説明することができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション —臨床心理学の対象 第2回：乳幼児期の心理学的特徴 第3回：乳幼児期に生じやすい心理学的問題 第4回：児童期の心理学的特徴 第5回：児童期に生じやすい心理学的問題 第6回：思春期の心理学的特徴 第7回：思春期に生じやすい心理学的問題 第8回：青年期の心理学的特徴 第9回：青年期に生じやすい心理学的問題 第10回：成人期の心理学的特徴 第11回：成人期に生じやすい心理学的問題 第12回：老年期の心理学的特徴 第13回：老年期に生じやすい心理学的問題 第14回：質疑応答と試験 第15回：グループ発表とディスカッション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で取り上げるテーマは限られているので、それを補完するために小グループでの発表を予定している。授業で扱っていないテーマで、かつ各自が関心のある心理学的問題について調べ、発表資料を用意する（学習時間90分）。 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する（学習時間90分）。						
授業方法	講義（実習を含む）						
評価基準と評価方法	<b>評価基準と評価方法</b> 試験（60％）：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 発表（20％）：発表内容により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 平常点（20％）：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。  <b>課題に対するフィードバックの方法</b> リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。期末試験の講評は最終回の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。						
履修上の注意	1. 講義だけでなく、実習や小グループでの発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						